

No.60 >>> Contents

●年頭所感 一般財団法人 大日本蚕糸会 会頭 小林芳雄	1
●一般財団法人大日本蚕糸会から	平成 30 年度（第 74 回）蚕糸功労者表彰式を挙行	2
●トピックス		
研修、それは想いを形に 新規養蚕参入者研修生 花村伊智江	5
素晴らしい体験に感謝！ 中央区立日本橋小学校 主任教諭 齋藤直子	7
群馬県の新たな養蚕担い手育成について 群馬県蚕糸技術センター 技術支援係長 伊藤 寛	9
「シルクサミット 2018 ～明治 150 年記念シンポジウム」について 農林水産省生産局地域対策官付 課長補佐 高坂有美	12
●蚕糸・絹業史のひとコマ		
特別蚕種と原蚕種、背負子と背負籠 シルク博物館 元部長 小泉勝夫	14
●研究・技術情報		
冬春期の桑園管理と桑の植え付け 一般財団法人 大日本蚕糸会 蚕業技術研究所 嘱託研究員 市橋隆壽	18
遺伝子組換えカイコの農家飼育が始まって 群馬県蚕糸技術センター 蚕糸研究係 池田真琴	23
●蚕糸・絹業団体情報		
「駒ヶ根シルクミュージアム」の紹介 駒ヶ根シルクミュージアム 館長 中垣雅雄	27
●イベント情報		31
●一般財団法人大日本蚕糸会から		
平成 30 年度第 3 次分の純国産絹マーク使用許諾状況		33
純国産絹マーク使用許諾者及び絹製品名一覧（H30- 第 3 次）		37
一般財団法人大日本蚕糸会活動日誌		44
第 7 回蚕糸絹業提携確立技術・経営コンクールの出品を募集		45
●蚕糸絹関係博物館一覧		46
●蚕糸絹関係機関ホームページ一覧		49
●統計資料（統計資料の詳細は統計資料目次をご覧ください。）		52



一般財団法人大日本蚕糸会

会 頭 小林 芳雄

明けましておめでとうございます。本年も、我が国の蚕糸絹業の発展のため、皆様から大日本蚕糸会に対して期待される役割が果たせるよう努力してまいりますので、宜しくお願い申し上げます。

シルク産業の発展には、シルクの品質の良さや機能の高さを活かし、新たな需要を開拓していくことが不可欠と考えます。とりわけ純国産の絹製品につきましては、蚕品種の特性や素材の特徴が市場での高い評価につながるように知恵を絞っていくことが重要です。当会では、そのために必要な研究開発や技術指導に取り組むとともに、養蚕・製糸から加工・流通にわたる関係者が提携したグループによる“高品質な純国産ブランドづくり”への支援を進めてきました。

近年、遺伝子組み換え技術を用いて、蚕に様々な新しい機能を付加することが可能になっています。その第一弾とされる緑色蛍光シルクを産出する蚕については、一昨年から一般農家での飼育が開始され、その普及対策が進められています。こうした新技術による機能を持つ蚕の飼育や絹糸の生産には、所要の新たな技術体系や施設・資材の整備が求められるとともに、その機能に着目した新規の需要開拓も急ぐ必要があります。これらの新たな課題の解決に向けて、関係の研究機関や行政とも協力しながら、当会の研究開発、技術指導のノウハウや関連施設を役立てていければと考えています。

これまで当会では、「蚕糸科学研究所」と「蚕業技術研究所」の両研究所体制で研究業務を進めてまいりましたが、2020年度末を目途に両研究所を統合して新たな研究所を設立することとし、準備作業を始めております。その狙いは、上記の諸事情を踏まえて、国産生糸の需要拡大に着目した養蚕から製糸に至る一体的な研究開発や技術指導の重点化を図ることです。併せて、伝統と特徴のある国産生糸の持続的な供給や新技術に対応できる生産・加工・流通体系の構築にも応えられる体制を整備することです。また、従来から進めている蚕品種の保全や高品質生糸の繰糸技術研究、文化史としての技術の継承などの業務の充実も図っていきたいと考えています。

当会の発足以来の基幹事業である研究開発について、情勢変化に対応して蚕糸・絹業の発展により資することができるものとなるよう、皆様方の引き続きのご理解とご協力をお願い申し上げます。

平成 30 年度（第 74 回）蚕糸功労者表彰式を挙



第 74 回を迎える一般財団法人大日本蚕糸会主催の平成 30 年度「蚕糸功労者表彰式」は、去る平成 30 年 11 月 20 日（金）東京都千代田区内幸町・帝国ホテル 2 階孔雀南の間において、総裁常陸宮正仁親王殿下御臨席のもと、盛大に挙行された。本表彰式では、蚕糸功績賞 2 名、蚕糸功労賞 14 名、蚕糸有功賞 15 名、貞明皇后記念蚕糸科学賞 1 件、蚕糸絹文化学習教育奨励賞（蚕を学ぶ奨励賞）2 小学校が栄えある表彰を受けられました。

1. 蚕糸功績賞（2名）

三 浦 幹 彦

元 信州大学繊維学部教授

野 瀬 兼治郎

現 一般社団法人全日本きもの振興会会長



三 浦 幹 彦 様



野 瀬 兼 治 郎 様

2. 蚕糸功労賞（14名）

岩 手 県

岩 手 県

山 形 県

福 島 県

福 島 県

群 馬 県

群 馬 県

長 野 県

長 野 県

愛 媛 県

（国研）農業・食品産業技術総合研究機構

（一社）日本絹人織織物工業会

（一社）日本絹人織織物工業会

（一財）伝統的工芸品産業振興協会

佐 藤 武 彦

阿 部 信 治

深 瀬 悦 男

大 山 友 一

菅 野 勉

杉 木 唯 市

毛 利 弘

松 下 勇 次

中 島 賢 生

密 田 和 彦

小瀬川 英 一

山 木 彰 英

山 崎 清一郎

西 嶋 和 直

3. 蚕糸有功賞（15名）

宮城県	佐藤孝太郎
宮城県	後藤宗司
福島県	阿部和弘
群馬県	有坂千代子
群馬県	木下栄子
群馬県	土屋祐子
千葉県	中川憲子
千葉県	高守恵美
長野県	神戸啓助
長野県	牛山仁志
京都府	高田佳和
京都府	大野昇
(国研) 農業・食品産業技術総合研究機構	小林始
(一財) 伝統的工艺品産業振興協会	塩谷貴則
(一社) 日本蚕糸学会	内本聡

○平成30年度（第61回）貞明皇后記念蚕糸科学賞

「養蚕農家における遺伝子組換えカイコの飼育管理手法の開発」

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構生物機能利用研究部門

	富田秀一郎
	行弘研司
	河本夏雄
	小林功
群馬県蚕糸技術センター	桑原伸夫

○平成30年度（第6回）蚕糸絹文化学習教育奨励賞（2小学校）

「蚕を学ぶ奨励賞」

群馬県 安中市立原市小学校

埼玉県 岡谷市立神明小学校

(敬称は略させていただきました)

研修、それは想いを形に

新規養蚕参入者研修生

花村伊智江

始めに、研修生第一号として、とても素晴らしい経験をさせていただき、有り難うございました。

私は、20代の頃より家業の肉牛肥育を、野菜生産者との結婚、出産（5人の育児）、両親の介護、BSEや牛の飼料の高騰、口蹄疫などに直面しながら、37年営んで来ました。

そんな私が、平成23年の東日本大震災で、人や町が津波に飲み込まれていく様子をテレビで見、その半年後、自分がアキレス腱を切って、命をも危ぶむ貧血持ちであったことが発覚。更に、平成24年12月2日、筐子トンネル事故をほんの数十秒違いで免れる経験もしました。一歩先、生と死は表と裏。このまま、今まで通りの生き方や考え方を続けていって、自分の命が終わる時、果たして自分の生きた価値を味わうことが出来るのだろうか、心の中にぽっかりと空洞が空いてしまったのです。

その空洞を埋めるかのように、宇宙や地球、進化の仕組み、家族、地球規模の人類による農業の現実、エネルギー問題、スピリチュアルなことなどの本を読みました。何かの間違っている…。だけど、私にいたい何が出来るんだ。

そんな折、松本平で蚕種製造販売をされている（株）高原社のパンフレットと繭が目に入り電話を入れたことから、（有）シンセイ社長の清水氏のお骨折りで、（一財）大日本蚕糸会の面接等を経て今回の研修となりました。

9月10日といえば、まだまだ家業の農業は、稲刈りも済まないような中、家族の協力を得ての出発でした。私に出来る何か、そこに待っている。それだけでした。

研究所の先生方は、随分と前より準備して、待っていて下さいました。当日いただいた研修予定表には、餉食、除沙、停食、上簇など、4種類の蚕の成長に伴う仕事の呼び方と私のこれからの毎日の仕事内容が、午前と午後に分けられ、ほぼ一日の空きもなく、きれいに埋まっていました。

二日目は、朝から、車のナビのトラブルで迷子になり、稲吉部長に助けをいただき、一時間遅れで研究所へやって来ました。直ぐに、蚕室に向かい、白衣、マスク、帽子、手袋、長靴、消毒をして新保所長、持田先生の指導で、1-3齢の人工育の掃立をしました。始めての方（昨日、お昼を一緒に食べてくださったので2回目です）との作業で緊張するだろうなと思っていたのです。

が、やることなすことすべてが面白くてしょうがない。お昼は、部屋で先生とお茶を飲みながら食べて、午後は二階の会議室で、市橋先生から桑の栽培についての講義を受けました。私の場合、桑園から造り上げなくてはならないので、地形、土質、気象条件、面積など、先生に具体的に話を進めていただきました。後日の桑の収量調査も、蚕の数を決定する上で大切な目安となるので、本当に有り難かったです。このような調子で、毎日毎日、研究所の中の色々な場所で、持田先生と大ベテランの松本さんに金魚のフンのように付いて回り、言われたことをオウムの様に返して学びました。ここにい

る時は、所長からシルバーさんまで全ての方が先生でした。ひとつの仕事が終わって手が空いて、別の所に顔を出してお手伝い。温かく接していただけて、とても楽しかったです。

最後に皆さんが集まって下さって、お弁当と一緒に食べたのは、とてもいい思い出です。「花村さん、何かあったら、直ぐに連絡しろよ。やっとスタートラインに立ったところだからな!」と、エールを送って頂きました。皆さん、本当に有り難うございました。一步一步、お蚕さんのように進みます。



人工飼料育（1～3 齢）の実習



摘桑の実習



桑葉育（4～5 齢）の実習



上簇の実習

素晴らしい体験に感謝！

中央区立日本橋小学校

主任教諭 齋藤直子

中央区立日本橋小学校は、東京都中央区日本橋人形町にあります。今後の児童増に向けて改築を終えたばかりのきれいな校舎は、図書館や社会教育会館との複合施設となっており、西郷隆盛屋敷跡に建っています。

都会の小学校は、ビルに囲まれ、校庭の木々も多くありません。理科では、3年生が昆虫の飼育を行いながら学ぶことになっています。都会の児童だからこそ、皆に飼育体験をさせたい……。しかし、ゴム敷きの校庭の片隅にはダンゴムシと、時折飛んでくる蝶くらいしか見られません。以前勤務していた学校で、蚕の飼育経験があったので、蚕を飼いたいと考えましたが、かつては多くの学校にあった桑の木も、本校にはありません。

そこで、蚕に関する情報を検索すると、(一財)大日本蚕糸会と業務上の関係がある企業として、(株)マルシバさんが学区内にいることがわかりました。これは何かのご縁と感じ、メールを送ったのが始まりでした。すぐにお返事をいただいて、卵と人工飼料、そして桑の葉を2回に分けて送っていただけることになり、この都会の真ん中の学校で、3年生の児童全員が蚕を飼育できることになったのです。

卵が届いた5月30日、ちょうどこの日に孵化するよう準備をしてくださっていた

ので、子どもたちは、卵から出てきたばかりの「けご」や、「けご」が出てくるところを見ることができました。こんなに小さいのに、頭を上げて体をぐいーっと起こしたり、少しずつ移動したりする姿に「かわいい！」と喜びの声が上がりました。

6月11日には、一人一人のパックに蚕を移して育て始めました。毎朝、学校に来ると、子どもたちは、まずパックをのぞいて「大きくなって～！」「脱皮した！」等と感動しながら、容器の中を掃除して、新しい葉を与えていました。理科の時間には、じっくり観察をして、脚がたくさんあって前の方と後ろの方にわかれていることや、おしりの方に角みみたいなものがあること等を見つけていました。中には、名前をつけて、休み時間には手にのせて愛でている子もいて、みんな自分の蚕が一番かわいいと思っているようでした。他の昆虫は触ることができないのに、蚕だけは触れるようになった子もいました。



蚕を愛でる子どもたち

7月になる頃には、一頭、また一頭と繭を作り始めました。一生懸命首を動かして糸を吐き、繭を作っていく姿に、子どもたちは神秘的なものを感じたようでした。

そんな時期に、(一財)大日本蚕糸会の皆様には、「蚕の特別授業」を行っていただきました。まず、全体に「蚕や蚕が日本に果たしてきた役割」についてお話をいただき、その後、繭クラフト・真綿や絹織物等の絹製品・繭から糸にする一粒繰り(いちりゅうぐり)・色々な繭の4つのコーナーに分かれて、体験学習をさせていただきました。

子どもたちは、初めての体験をとっても楽しんでいました。また、参観された保護者の方からも、大人でも初めて知ったことがあったと大変好評でした。

日本橋は、着物の街です。周囲には、着物の店がありますし、子どもたちにとっても他地域に比べ、着物が身近です。着物になる絹織物、その大もとに蚕がいるということを学ぶことができ、そして、何より、命を慈しむ体験ができ、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。



蚕の特別授業で一粒繰りを体験する子どもたち

群馬県の新たな養蚕担い手育成について

群馬県蚕糸技術センター

技術支援係長 伊藤 寛

群馬県では、蚕糸絹業（養蚕・製糸・絹業）に関わる一連の産業が営まれ、平成26年6月「富岡製糸場と絹産業遺産群」の世界遺産登録を契機に、絹産業再生への機運が高まっています。こうした中、養蚕に関心を持ち繭生産を希望する方が増えていることから、平成28年に「ぐんま養蚕学校」を核とした新たな養蚕担い手育成プログラムを開始し、蚕糸業の維持・発展を推進しています。

1 新たな担い手育成について

蚕糸技術センターでは養蚕参入を希望する人に、1年間に5つのステップにより養蚕への理解を深めて参入条件を見極めていただき、養蚕作業の体験を通して参入可

否を決めていただきます（図1）。以下に、各ステップについて説明します。

Step 1 ぐんま養蚕基礎講座

将来、群馬県内で養蚕を始めたいと考えている方を募集し、「ぐんま養蚕学校」の前段階として「ぐんま養蚕基礎講座」を開催します。養蚕の知識が全くない方でも理解できるように、蚕の生態や養蚕の基礎知識、養蚕経営等について幅広く易しく解説します。

Step 2 アンケート調査

「ぐんま養蚕学校」への入校意思を確認します。また、参入スケジュール、飼育規模、経営計画等を確認し、今後の支援材料とします。

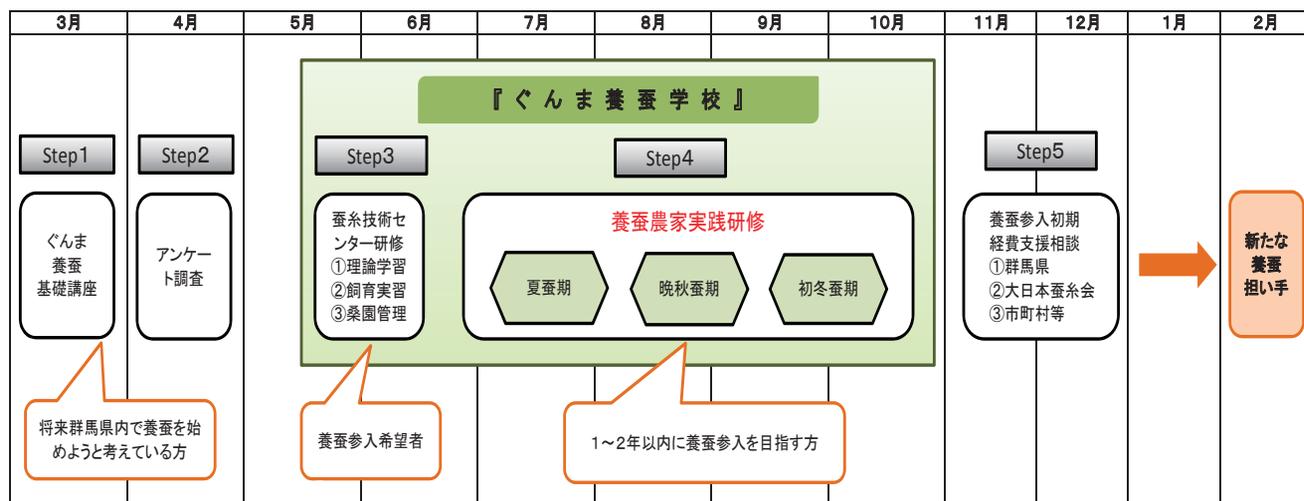


図1 群馬県の新たな養蚕担い手育成プログラム



図2 給桑

Step 3 蚕糸技術センター研修

養蚕参入を希望する意欲ある人を対象に、蚕糸技術センターで蚕を上手に飼うポイントを研修します。養蚕農家の作業を想定し、3齢幼虫から繭を作るまでの桑くれ作業（図2）と桑の収穫、繭を作らせるための作業（図3）と繭の出荷準備までを連続して実習します（約22日間）。また、桑の栽培法や肥培・除草等の桑園管理技術、蚕の病気を防除するための消毒技術等を体験します。

Step 4 農家実践研修

1～2年以内に県内で養蚕を職業として始めたいという方を対象に、就農希望地域の養蚕農家で「生きた養蚕業」を研修します。農家の実践的な養蚕を学ぶため、早朝の桑収穫など農家の作業体系に合わせて実習します。また、研修を通じて地元の養蚕農家と親交を深めることで、就農後の身近なアドバイザーとして相談し易くなります。

Step 5 養蚕参入初期経費支援相談

新規参入するには、養蚕施設・機材・資材等や桑園（農地）の確保が必要となります。そのような初期経費を支援するために、



図3 上簇

県・市町村・（一財）大日本蚕糸会等の各種補助事業を紹介し、有効的な活用を推進します。また、参入地域のJA蚕業技術員と連携し、参入に向けたアドバイスをします。

2 「ぐんま養蚕学校」修了生の参入状況

今年度の第3期「ぐんま養蚕学校」では、蚕糸技術センター研修に8名の方が参加し、2名の方が養蚕農家実践研修を修了して参入準備をしています。1～2期でセンター研修には27名、農家実践研修は12名が参加し、その内8名はすでに養蚕を開始、1名は養蚕参入した企業に就職して即戦力として活躍しています。

3 参入後の支援について

群馬県では、平成26年度以降に「ぐんま養蚕学校」修了生を含めて23者（個人13、団体等10）が新規参入しました。参入後も、蚕期中の電話相談や巡回指導、蚕期後の意見交換を兼ねた研修会等を実施し、継続して支援をしています。また、養蚕と他作物の複合経営を考えている方には、JA・市町村、農業事務所等と連携して作物の選定・栽培技術等を指導し、定着す

るよう応援していきます。

4 おわりに

群馬県蚕糸技術センターは県立としては、蚕糸業に係る国内唯一の公設試であり、養蚕技術の指導機関としてもオンリーワンです。「養蚕やるなら群馬県」。付加価値を高めた群馬オリジナル蚕品種の育成と供給、稚蚕人工飼料の製造と供給、遺伝子組換えカイコの実用化等の研究をしている蚕糸業の総合支援センターの役割を担っています。

平成31年度も新たな養蚕担い手を育成するために、「ぐんま養蚕学校」を開講します。Step 1の第4回「ぐんま養蚕基礎講座」は、平成31年3月20日（木）に開

催予定です。養蚕に関心があり、将来群馬県内で養蚕を始めたいと考えている方を募集します。申込み・問い合わせは、下記までお願いします。

■申込み・問い合わせ先：

群馬県蚕糸技術センター

〒371-0852

群馬県前橋市総社町総社 2326-2

TEL：027-251-5145

FAX：027-251-5147

E-mail：sanshigise@pref.gunma.lg.jp

「シルクサミット 2018 ～明治 150 年記念シンポジウム」について

農林水産省生産局地域対策官付

課長補佐 高坂有美

今年、明治元年から起算して満 150 年の年に当たります。日本の蚕糸業は明治期に大きく発展し、生糸の品質向上を実現することによって海外においても高い評価を受け、世界一の生糸輸出国に成長し、日本の経済が大きな発展を遂げる原動力となりました。

現在、政府は農林水産物・食品の輸出額 1 兆円を目指して様々な取組を進めています。また、東京オリンピック・パラリンピックを再来年に控え、日本に対する世界からの注目も高まっています。

農林水産省では、明治 150 年を機に明治期の生糸の飛躍的な輸出拡大の経験に学び、今後の農林水産物・食品の輸出拡大や、和食を含む和の文化の魅力発信など、日本の強みを海外展開に活かしていくことをテーマとして、平成 30 年 11 月 6 日に、星陵会館（東京都千代田区）において、「シルクサミット 2018 ～明治 150 年記念シンポジウム」を開催しましたので、その内容についてご紹介します。

1. 基調講演

まず、1939 年から 2005 年まで富岡製糸場の民間最後のオーナーを務めた片倉工業株式会社 代表取締役社長の佐野公哉氏より、「世界有数の生糸輸出国となるまで

の歩み」と題し、基調講演をしていただきました。

日本が世界一の生糸輸出国となった理由を、①富岡製糸場の創業、②蚕品種の改良と普及、③繰糸機の改良の 3 つに分け、日本の近代化の礎を担ってきた工女たちのこと、片倉工業が行った優良な繭の普及に向けた養蚕農家への技術指導や啓発活動、御法川繰糸機や自動繰糸機の開発などについてお話しいただくとともに、現在の片倉工業のシルク事業について紹介していただきました。



佐野氏による基調講演の様子

2. 講演

次に、カイコやシルクを利用した新たな産業の創出に向けた技術の開発と普及に取り組んでいる国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 生物機能利用研究

部門 新産業開拓研究領域長の門野敬子氏より「日本の科学技術が生み出す新しい絹とその活用」と題し、ご講演いただきました。

昨年農家で一般飼育が始まった緑色蛍光シルクの開発や、カイコをタンパク質生産工場として利用したバイオ医薬品産業への参入など、遺伝子組換えカイコを利用した有用物質生産の事例をご紹介いただくとともに、科学誌においてカイコが食糧として宇宙へ飛び立つ未来が提案されていることなどをお話しいただきました。

3. パネルディスカッション

その後、「海外から見た日本文化の魅力」というテーマでパネルディスカッションを行いました。パネリストには、絹分野から一般社団法人 千總文化研究所長の加藤結理子氏、生糸ともに明治期の輸出品であった日本茶の分野から宇治の露製茶株式会社取締役常務執行役員 海外事業部長 兼 日本茶輸出組合 理事長の桐島俊昭氏、海外展開を進めている和食の分野から日本橋ゆかり三代目店主の野永喜三夫氏にご登壇いただきました。



パネルディスカッションの様子

まず、各分野での明治期の輸出の取組や日本製品の評価の振り返りをいただいた後、需要拡大や海外への魅力発信のために現在取り組んでいること、これからの海外展開のために必要な工夫などについてアイデアを出していただきました。そして、日本文化は世界に誇れるものであり、伝統を受け継ぎつつ、新しいデザインへの挑戦や、海外文化との組合せなどをしながら、引き続き魅力発信に取り組み、日本の食品、製品の海外への展開を進めていきたいということなどで締めくくられました。

来場者からは、一口に日本文化と言っても、シルク、お茶、和食という異分野が一堂に会して情報交換する機会は少ないので、非常に興味深く参考にしたい、などの感想が聞かれました。

4. 映画上映、展示など

パネルディスカッションの後、富岡製糸場に工女として入場した少女たちの不安や葛藤、誇りを描いた映画「紅い襷～富岡製糸場物語～」(2017年、富岡市製作)を上映しました。

また、出演者の皆様の御協力を得て、明治期の蚕糸業に使用された道具類や明治期から現代までのシルク製品などの展示、休憩時間には、お茶とお菓子のご提供、またシルクの内装を施した部屋での茶会や組紐作りの体験イベント、明治天皇が愛された薩摩琵琶の演奏を行いました。

来場者に、明治150年を機に、日本の伝統文化に触れ、様々な可能性に思いをはせていただく良い機会になったのではないのでしょうか。

シルク博物館

元部長 小泉勝夫

その11 特別蚕種と原蚕種

「特別蚕種」という言葉を初めて聞いたという読者が多いかもしれない。

ところが明治末から大正中期ぐらいまでの蚕種製造統計を見ていると、この用語が出てくる。

この言葉が公的に使用されるようになったのは、1911（明治44）年3月に公布された蚕糸業法である。

蚕糸業は幕末の開港以来、外貨を獲得する重要な産業であった。しかし不良生糸の輸出問題が絶えることがなかった。このために不良生糸輸出防止の取締りをその都度実施してきたにもかかわらず解決されなかった。

こうした弊害をなくすため優良蚕品種の選定と普及を図る法制度の確立を目指して、1911（明治44）年2月4日に帝国議会で蚕糸業法案が提出された。

同法案は、同年3月2日には衆議院を通過、貴族院でも同年3月14日に可決され、2週間後の3月28日には公布された。

本法は養蚕・蚕種製造・真綿製造・殺蛹乾燥に携わる者をはじめ、蚕種や繭・屑物類の販売、仲立ち保管を業とするもの等、蚕糸関係者全体を対象に、業種や業務などによって、許可や免許・統制をし、検査や団体組織などについて法制化した。この法律の中に目的とする優良蚕品種の選定と普

及を図るための特別蚕種の制度が定められた。その主要部分を拾い上げると次のとおりである。

本法第7条に、「蚕種製造者ハ、第11条第2項及第12条ノ規定ニ依ル特別蚕種ヨリ産出シタル繭ヲ用ウルニ非サレバ蚕種ヲ製造スルコトヲ得ス」

第11条には「蚕種製造者ハ収繭後ニ於テ掃殻及繭、産卵後ニ於テ越年蚕種ニ在リテハ出殻繭及卵、不越年蚕種ニ在リテハ出殻繭ニ付検査ヲ受クヘシ但シ不越年蚕種ニ在リテモ卵ノ検査ヲ受ケシムルコトヲ得蚕種製造業者蚕種ヲ特別蚕種ト為サムトスルトキハ之ヲ框製トシ前項ノ検査ノ外越年蚕種ニ在リテハ母蛾、不越年蚕種ニ在リテハ卵及母蛾の検査ヲ受クベシ」

第12条には「主務大臣ハ前条ノ規定ニ拘ラス原蚕種製造所、学校、講習所、試験場等ニ於テ製造シタル蚕種ヲ特別蚕種ト指定スルコトヲ得」とあり、この法律で初めて特別蚕種制度が定められ、特別蚕種でなければ製造を認めないことになった。

この法律制定によって優良生糸生産の道が開けたかのようにみえた。

ところが蚕糸業法に特別蚕種が定められてからも、雑駁な蚕品種が非常に多く存在し、不良生糸生産が行われ問題解決にはならなかった。

大正5年の蚕品種数

化性等	蚕種数
1 化 性	1,611 種
1 化性冷蔵	629
2 化 性	548
2 化性冷蔵	522
多 化 性	7
合 計	3,317

出典：農商務局農務局「大正5年度蚕業取締成績」P.188 (1918年)

蚕糸業法制定後暫らくして1916（大正5）年には、国内の蚕品種数は3,000種（表参照）を越えるという多品種時代を迎えてしまった。

このような多品種の出現を招いたのは、遺伝学者外山亀太郎が1906（明治39）年、蚕業新報に、1909年、著書「蚕種論」に一代交雑種が優れ、有利であることを発表、この外山の提唱を農商務省原蚕種製造所（大正3年、蚕業試験場に改称）によって証明されるさ中、今井五助らによって大日本一代交配蚕種普及団が結成され、1914（大正3）年から一代交雑種の普及を長野県下で、翌年からは全国各地に普及させ大きな成果を上げた。この成功に大きな刺激を受けた全国各地では、蚕品種の育成が盛んに行われ、このような多品種の出現とな

ってしまった。

そこで、1917（大正7）年7月に蚕糸業法を改正して、特別蚕種は原蚕種とみなすと規定し、同年度から蚕種製造用蚕種を原蚕種、製糸繭生産用蚕種を普通蚕種として扱い、優良蚕品種の保存維持に努めることにした。

しかしながら、こうした法改正によって優良な原種の保存に努めるようにしたにも拘わらず、依然として蚕品種数は多く、良質な生糸を輸出するためには、更に優良な蚕品種のみに整理する必要がある。

昭和に入っても蚕品種数が依然として多く、不良生糸生産の原因となっていたため、国は遂に1934（昭和9）年に「原蚕種管理法」を制定し、政府による原蚕種製造の管理を行うことにした。

幕末の横浜開港以来、四分の三世紀を経過して原蚕種管理法が制定され、漸く不良蚕品種が駆逐され、優良蚕品種の普及を見ることになったが、これもつかの間、1941（昭和16）年には太平洋戦争に突入し、たちまち生糸の輸出はされなくなってしまった。

特別蚕種や原蚕種という言葉は、このように蚕糸業法の中で使用され出した蚕糸専門用語である。

その12 背負子と背負籠

今回は戦後昭和30年代ごろまで、非常に使用された民具の一つ、背負子しよいこと背負籠しよいかごを取り上げる。

背負子といえばレジャーで使う道具を思い起こす人が多いであろう。一時、登山をする人たちが小型の背負子を多く利用したが、最近はより安全な登山用リュックに置き代ってしまった。しかし、山小屋へ荷物を運ぶ人たちは、現在も背負子を使って、一度にたくさんの荷物を運び上げている。

こんな話を持ち出すと、蚕糸・絹業史には全く関係のない話ではないかと云われるかもしれないが、この背負子は、古くから農家の荷物運搬用具として使われてきた便利な道具である。

背負子の大きさや形は地域によって異なっていたが、基本的な形は2本の縦木に3本の横よこさん棧はしごがつけられた梯子状で、背当たりの部分には縄が巻かれて緩衝具の役をしていた。縦木の長さは150cmぐらいの大型のものから70cmぐらいの小型なものが使われた。写真1は筆者の実家（長野県）で使っていたもので、縦木の長さは約123cmある。縦木の長さは平坦地ほど長く、山間傾斜地のきつい傾斜地帯に入るほど短いものが使われていた傾向がみられる。

呼び方も各地によってさまざまで、ウマ、ウマハシゴ、オイコ、オイカギ、オイノコ、オイワク、オェーコ、オダバシゴ、カズキバシゴ、カリコ、カレーバシゴ、カルコ、カル

イ、シェーワク、ショイバシゴ、ショイワク、セウマ、セイタ、セータ、セーダイ、セナカチ、セナガチ、セナコ、セナゴ、セーハシゴ、セーバシゴ、ハシゴセナガチ、ヤセウマ、ヤセウンマ、ヤヘンマなどと呼ばれていた。

どこの地域の農家でも必用とした道具であったが、平坦地に住む農家よりも山間傾斜地で営農する農家の方が使用頻度の高い道具であった。

太平洋戦争が終了しても農村の営農環境は旧態依然とした状態が続いていたので、農道などは荷車も使えない狭い道が多かった。特に山間地では集落を出ると田畑や山林などへ通じる道は一人か二人歩くことができるぐらいの狭い道で、大八車などを使用することができるような状態ではなかった。

このような悪い道路環境の中では、炭たきぎ、薪などの林産物や稲、麦、米俵まぐさ、桑、秣などを運ぶのには背負子が使われた。



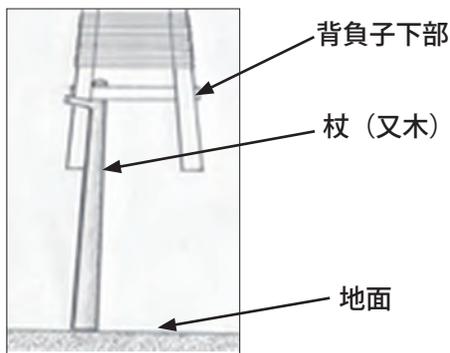
(写真1) 背負子

養蚕は山間地の奥深くの集落にまで普及していたので、桑は山間傾斜地に多く栽培されていた。春蚕期の蚕に与える条桑を運搬するには背負子、^{ぜんが}全芽や全葉は背負籠が必要であった。

背負籠も地域によってイジコ、オオカゴ、オーカゴ、オオクワカゴ、カガイ、カルイ、クサカリカゴ、スカリ、ヨゴダ、ヨゴダカゴなど様々な呼び方をしていた。

読者の中には背負子や背負籠を使用した経験者もおられると思うが、未経験の方もいるであろう。筆者は長野県の山間地に育ったので両者ともよく使用した。

筆者の育った集落では、一人前の男性であれば背負子を使って1回に条桑5～6束を背負って運んだ。1束20kgぐらいあったので、米俵2俵(約120kg)ぐらいを背負って約1km前後の道のりを運ばなけれ



(図1) 休憩する際の杖の使い方



(図2) 背負籠

ばならなかった。

平坦地の道路事情のよい所では大八車やリヤカーを使用することができたが、道の狭いところでは背負子運搬であったので非常に重労働で、長い距離を運ぶ場合には、背負子用の杖(又木^{またぎ}と呼んでいた。長さ約71～73cm)を図1のように使って、腰を下ろさず立ったまま荷重を又木に移し休憩したものである。腰を地面に下ろして休憩すると、立ち上がる時に非常に苦勞するためであった。慣れるまでは又木に荷重を移すことが出来ず苦勞した。



(写真2) 桑園から背負籠による桑葉搬出風景
(出典：The Raw Silk Industry of Japan p.4)

戦後～昭和40年代初めごろまでの夏秋蚕飼育は、全国的に全葉育が盛んであったので、桑畑で葉を摘み、背負籠に詰めて家路へ急いだ(図2参照)ものであった。摘み葉の入った籠の重量はかなり重かったので、女性たちにはきつい運搬作業であった。

稚蚕共同飼育所で飼育作業に携わる場合も、稚蚕共同飼育用桑園から摘み葉を飼育所へ運んだ(写真2参照)ものであったが、その後、農道の拡張整備や牽引トラクター、小型トラックの導入、人工飼料育による稚蚕共同飼育が普及したので、背負籠風景は消え去っていった。

冬春期の桑園管理と桑の植え付け

一般財団法人 大日本蚕糸会
蚕業技術研究所

嘱託研究員 市橋隆壽

はじめに

繭生産の向上を図るためには、桑園の土地生産性を高めることが重要であり、とりわけ年間の生産力を左右する冬期から春先の桑園管理を充分に行うことがその決め手になります。すなわち、蚕期中は飼育に関する作業が中心になり、桑園の管理作業はどうしても手薄にならざるを得なくなるからです。また、効率や作業の容易さの面からも土壌改良材や有機物の施用、枯れ株の整理、春肥の施用、雑草防除などを行うにもこの時期が適しているからです。以下、各項目ごとにそのポイントを記述します。

また、この時期は、新植（新しく桑を植え付けること）や改植（既存の桑園に桑を植え替えること）をする場合にも適期となりますので、その手順等についても記述します。

1. 冬春期の桑園管理

1. 春肥の重要性

春肥は春蚕期の桑収量や葉質を向上させるばかりでなく、夏切り（春蚕期に行う株基伐採のこと）後の再萌芽や春切り（春の

発芽前に行う伐採のこと・彼岸切りとも言う）後の新梢の発育にも大きく影響することから重要な作業です。勿論、春蚕期の収量は前年秋の収穫時に残した枝の長さに左右されることの方が大きいわけですが、春肥はその年のスタートダッシュのエネルギーになりますので、適期・適量の施用を実施しましょう。

施肥時期は利用効率の面から発芽前 30 日前後が適しています。そして、施肥量は桑の生産目標に見合う化学肥料を施用しますが、この時期は年間施肥量の 50～60% を施用し、残りの量は春蚕期終了直後に施用します。また、施用後なるべく早く土壌と混和することは、飛散や流亡を防ぐとともに桑への吸収効率も高められることから重要な作業となります。

2. 土壌改良材及び有機質の施用

桑の適正土壌酸度（pH）は、6.0～6.5 とされておりませんが、桑園においても降水量の多い日本では酸性土壌になりやすいです。このことによって施肥の効果が低減したり、土壌中の微生物の活性が弱くなった



写真1 石灰の施用

り、病害虫に対する抵抗力も弱くなることから、石灰類やリン酸などの土壌改良材の施用は重要な作業となります。石灰の施用量については、それぞれの桑園の土壌条件によって異なりますので、関係機関に土壌酸度の測定をしていただき、矯正に見合う量を施用します。(写真1)

堆厩肥(家畜の排泄物を稲わらなどで混合し腐熟化したもの)などの施用は、肥料分を吸着し保肥力を向上させるとともに、土壌中の団粒構造が良好になるため保水力や離水力など地下部の水分環境を良好にします。併せて通気性も良くなることから根の発育も良好になりますので積極的に施用したいものです(写真2)。勿論、堆厩肥でなくても蚕室から出される蚕糞・蚕渣(蚕の糞や食べ残した桑のこ)とか、稲刈り後のワラや刈り草などでも良いのですが、これらは充分完熟させてから施用した方が良いでしょう。特に、蚕糞・蚕渣はカイコの病気の発生源になる場合もありますので注意が必要です。



写真2 堆肥の施用

3. 雑草防除

この時期は、特に越年生雑草(ハルジオン、タンポポなど)を除草することで春以降の繁茂を抑制できます。その方法としては、春肥施用後の中耕によって畦間の雑草防除は可能になりますが、株元の雑草については茎葉処理剤(雑草の地上部に散布することで葉や茎の表面から吸収され、雑草を枯らす除草剤のこと)を使用することで除草が容易になります。また、土壌処理剤(雑草がまだ生えていない土の表面に散布して雑草が生えてくるのを防止する除草剤のこと)を併用することで春期までの雑草防除が期待できます。この他、雑草の発生量が少ない桑園では、茎葉処理剤のスポット処理も有効な防除方法になります。

茎葉処理剤の散布時期は、気温がある程度上昇し雑草の活性が高くなっていく頃が殺草効果も高くなってきます。また、土壌処理剤はその特性から施肥→中耕など一連の管理作業が終了した後に散布すると抑草効果が高くなりますので適期散布を心がけ

ましよう。

4. 株整理

この時期に桑園で枯れたままになっている株や枝の整理は、そこに潜むカミキリムシの幼虫をはじめ越冬害虫などの駆除になりますので、春先の管理として是非実施していただきたい作業です。また、切り取った株などは焼却処分するのが一番良い方法です。

この作業で欠損株（枯れたままになっている株）が多く出た場合は、新たに桑苗をそこへ植え付ける補植の適期でもあります。また、樹齢が古くなり生産性が低下してきている桑園でも回復の見込みのある株は、「株下げ樹勢更新」をすることで生産力アップが図れます。株下げの手段としては、チェーンソーまたは鋸などで株の地際付近から切断する方法です。この処理によって新しい芽が伸長してきますので、その後は新植と同じ方法で株作りをしていきます。

処理当年は新植と同じような生産力になりますが、その後は徐々に増収が見込めますので、比較的簡易な改植的方法として状況を判断して実施したい作業です。

II. 桑の植え付け

桑は一度植え付けると植え替えが極めて困難であることから、植え付けに当たっては十分に検討して進めることが重要です。以下、新植または改植する場合の手順やポイントについて記述します。

なお、植え付ける前の段階＝「造成」に

については既刊の「シルクレポート No.50」（平成 28 年 9 月発行）を参照して下さい。

1. 植え付け手順とポイント

1) 植え付けに当たっては、なるべく南北畦の栽植になるよう区画をします。勿論、地形や傾斜方向、植え付け後の作業効率などを考慮した上で実施します。

2) 植え付け密度（畦間と株間）を決めますが、この時大事なのが畦間の間隔です。すなわち、植え付け後の桑園管理をどのような方法で実施するかによって畦間が決められるからです。特に機械で管理する場合には施肥、中耕、除草、収穫、薬剤散布などに用いる機械の大きさで自ずと畦間が制限されるからです。

畦間を狭くして単位面積当たりの株数を多くすればそれだけ多収を見込めますが、管理作業を優先した植え付けをお勧めします。

また、株間については、畦間とのバランスや生産力を考慮して決めますが、普通の栽植密度（500～1,000本／10a）の場合は株間が50～60cmが良いでしょう。

3) 畦間の間隔が決まれば、桑の植え溝または植え穴を掘るためのラインを引きますので、その基準となる杭を打ちます。この時考慮することは、機械で管理を予定している場合、使用する機械の旋回に伴う枕地も作っておく必要があります。

4) 杭打ちをした基準に沿って、溝または穴を掘るための印を付けますが、その方法としてはヒモなどを張って、そこへ石灰などでラインを引くとか、足跡などで印を

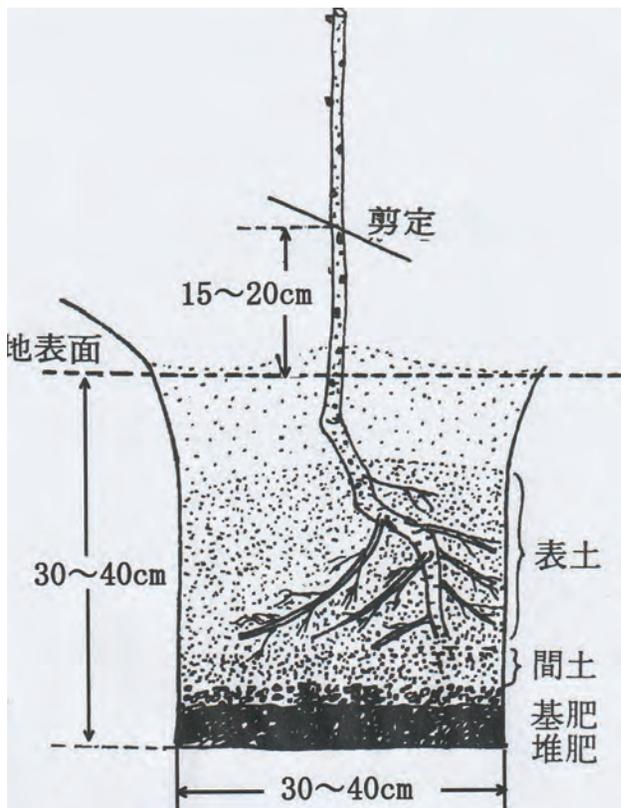


図1 植え付けの基本図

付ける方法で実施します

5) 上記の印に沿って溝または植え穴を掘っていきますが、植え付け作業や植え付け後の桑の生育にも良いことから、溝を掘って植え付ける方法をお勧めします。以下、溝植えを前提に記述します。

溝掘りにはトレンチャーとか機械に装着する溝掘り機がありますので、これらを利用すると効率的に実施できます。

6) 溝を掘った所へ堆肥と化学肥料を施用します。堆肥の施用量は造成時にどのくらいの量を投入したかにもよりますが、植え付け時にも施用した方が桑の生育は良好になりますのでお勧めします。

また、化学肥料の施用量は通常年間に施

用している量の60～70%を一度に施用します。例えば、窒素成分で10a当たり年間20kg施用しているとする、植え付け時には溝の中へ12～14kg施用することになります。

施用後は化学肥料が桑の根と直接接触しないように間土をしてから植え付けます(図1)。

7) 植え付けに際しては、植え始めの起点となるところへ一本のヒモを張ります。と同時に植え付ける溝の所へ、もう一本のヒモを張ります。この時の両者のヒモには事前に決定した長さ、すなわち前者のヒモには畦間の印を付け、後者のヒモには株間の長さで印を付けておく、植え付け時の能率が大変良くなります。さらに、ポイントとしては、植え溝が長い場合は、ヒモが垂れたり、横にずれないように棒などで防止しておく、と真っ直ぐに植え付けができます。

8) 桑苗は、植え付ける直前に枯れたり傷んだ根や極端に長い根を切り落としてから植え付けます。これを「根ごしらえ」と言い、この作業をします。

9) 植え付けは、3人一組で実施し、1人は桑苗の根元を足で動かないよう固定し、もう2人で左右から土を寄せて植える方法が能率的で、且つ真っ直ぐに植えることができます(写真3)。また、植え付けをして行く時は苗がぐらつかない程度に土寄せし、その畦の植え付けが終わった後で再度桑苗が固定されるようにやや山盛りの状態まで土寄せし、桑苗の周りを踏み固めておきます。



写真3 植え付けの状況

10) 植え付け後盛り土が落ち着いたら、桑苗を一定の高さで切り揃えます。

切り揃える高さは、その後の仕立て方によって異なりますが、一般的な根刈り・高

根刈り仕立てにする場合は地際から15～20cm程度で切り揃えます。

以上、冬春期の桑園管理と桑の植え付けについて記述しましたが、より詳細なことなどでの問い合わせは下記で対応します。

■問い合わせ先：

一般財団法人大日本蚕糸会

蚕業技術研究所 栽桑チーム

〒300-0324

茨城県稲敷郡阿見町飯倉 1053 番地

TEL：029-889-1771

E-mail：matsukawa@silk.or.jp

E-mail：ichihashi@silk.or.jp

遺伝子組換えカイコの農家飼育が始まって

群馬県蚕糸技術センター

蚕糸研究係 池田真琴

2017年9月、遺伝子組換えカイコ(以下、GMカイコ)の農家飼育に係る承認申請に対し、カルタヘナ法第一種使用規程の大臣承認が下りました。これにより、農家蚕室でのGMカイコの実用飼育が世界で初めて実現しました。データを積み重ねてようやく承認を得ましたので、ここに至るまでの過程と、昨年からはまった農家飼育の様子を紹介します。

「カルタヘナ法」により規制されています。GMカイコを農家で飼育する場合、組換え生物を閉じ込めて外に出さないように飼育するやり方(閉鎖系)では、施設の気密性を高めるなどの整備にコストがかかるため、開放系のみで、これまでのやり方にできるだけ近い方法を執る必要があります。このようなことから、農家飼育実現までには、GMカイコを作出するだけでなく、カルタヘナ法に抵触しない飼育方法を、飼育試験を繰り返して検討しました。その結果として、2016年11月に農家で飼育するための申請書を提出し、4回の昆虫分科会とその後の総合検討会での審査、2017

1 農家飼育までの道程

遺伝子組換え生物の栽培や飼育は、「遺伝子組換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律」(通称

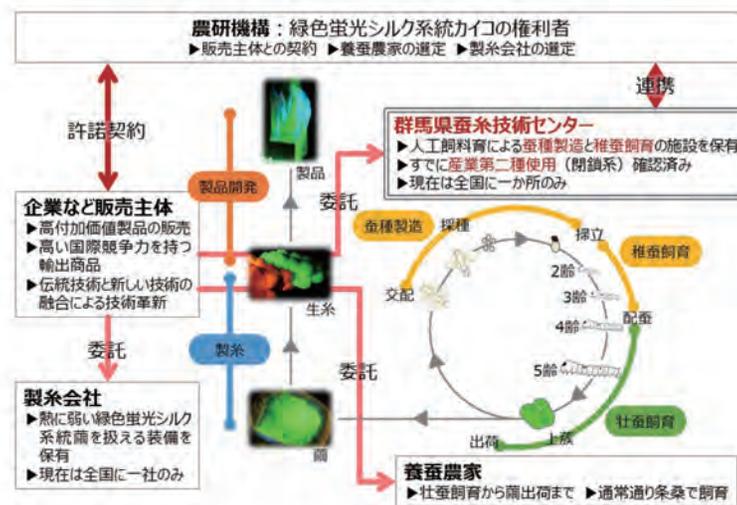


図1 農家で遺伝子組換えカイコ繭が生産される仕組み

年7～8月のパブリックコメントを経て、同9月、遂に農林水産大臣と環境大臣からの承認を得ることができました。

2 GM カイコ繭生産の仕組み

今回の承認で飼育できるGMカイコは「緑色蛍光タンパク質含有絹糸生産カイコ」、すなわち、GFPという緑色蛍光のタンパク質がフィブロインで作られるように遺伝子を組換えたカイコです。農家がこれまでのカイコと同様の取扱いで飼育できるよう、農研機構で作られたGMカイコの原種をより健全で繭も大きく、成育の均一性も向上するように当センターで実用品種化しました。

こうして生まれた「GFPぐんま200」というカイコの繭は、図1の仕組みに則り生産されます。まず、この繭を要望する企業などが、このGMカイコの権利者である農研機構と許諾契約を結びます。農研機構はGMカイコを飼育する養蚕農家と、その繭を糸にする製糸会社を選定し、それぞれに対し研修を行います。

一方、GMカイコとは言え飼育方法は普通のカイコと同様なので、農家が飼育するには、普通のカイコと同様、蚕種製造（カイコの卵を作ること）と稚蚕飼育（1～3齢のカイコを人工飼料で飼育し、農家に運ぶこと）が必要です。GMカイコの蚕種製造と稚蚕飼育は、現在のところ、カルタヘナ法の確認を得た当センターの施設以外では行うことができません。そこで、農研機構と契約した企業や団体は、蚕種製造と稚

蚕飼育を当センターに委託、壮蚕飼育と繰糸を農研機構が選定した農家と製糸会社に委託し、最終産物である緑色蛍光シルクの生糸が納品される、という流れになります。

3 農家飼育の実際の様子

このような仕組みの中、世界で初めての農家飼育は、京都西陣の(株)細尾が農研機構と許諾契約を結んでスタートしました。

農家ではまず、GMカイコを飼育するために、蚕室の窓や出入りしない扉に4mm目以下の網を張り、壁などに隙間がある場合は、コーキング剤や発泡ウレタンで埋めます(図2)。また蚕室入口には「関係者以外立入り禁止」を表示し、注意を促します。カルタヘナ法に従って飼育する場合はその他に、作業後に蚕室から出る前に体にGMカイコが付着していないことを確認すること、飼育後の残渣(食べ残しの桑の葉や枝、カイコの糞など)を上簇(糸を吐き始めたカイコを簇(まぶし、繭を作らせる道具)に移すこと)から約10日後に行う収繭(簇から繭を取り出して収穫すること)までにチッパーで粉碎処理するか、閉め切り可能な蚕室の中あるいは残渣置場に運ん



図2 ネットを張り(左)隙間をコーキング剤で埋めた(右)農家蚕室

で4mm目以下の網をかけた状態で30日間以上保管することが必要です。さらに、GMカイコとクワコとの間に交雑が起きていないか確認するため、クワコのモニタリングも必要です。

と、こう書くと、GMカイコを飼うってとても大変なの？と思うかもしれませんが、要は「GMカイコとクワコの成虫を出会わせて交雑させない」ことがポイントです。そこを押さえておけば、後は全く普通のカイコと同じように飼育できます（ちなみに、これまでのモニタリング調査で交雑個体の発生は全く確認されていません）。

2017年10月5日、当センターで稚蚕飼育した4齢のGMカイコを農家に届けました。約3,000頭のカイコを密閉できる容器に入れ、さらにその容器を5つずつボックスに入れてトラックで運びました(図3)。農家ではカイコを飼育場所に移し、網をかけて桑を与えます。こうすることで、カイコは網の下から上の桑に移動し、人工飼料を取り除くことができます。その後は普通のカイコと全く同じように1日3～4回の給桑を続けると、4～5日後に就眠（食桑が止まり脱皮前の状態になること）しま



図3 「GFP ぐんま 200」の4齢幼虫を農家に運んだときの様子

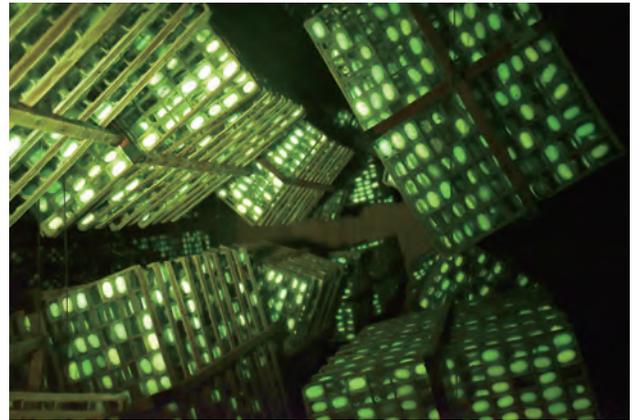


図4 回転族の中で形成された光る繭（青色LED照射下で黄色フィルターを通して撮影）

す。石灰を散布し、カイコが脱皮を終えて概ね起き揃ったところで5齢の桑付け（5齢の飼育を始めること）となります。5齢のカイコは8日間桑を食べ続け、9日目に熟蚕となって淡い緑色の糸を吐き始めました。もちろん、普通のカイコと同じように上簇します。桑の枝から熟蚕を振り落として集め、回転族に移します。2～3日後には淡い緑色の繭が形成され、青い光の下、黄色いフィルターを通して見ると、鮮やかな緑色に光る繭を観察することができます(図4)。上簇から7～10日後に収繭と毛羽取りを行い、不良繭を取り除いて袋詰めにし、出荷します。普通のカイコの場合、繭は農協の集荷場を経て製糸会社に出荷されますが、GMカイコの場合は中の蛹を殺さなければならないので、当センターが農家から「取扱注意」の札を付けた繭袋を預かり、センターにある-20℃の冷凍庫に24時間以上置いて殺蛹してから、長野の(株)宮坂製糸所に出荷しました。現在、この時の繭はすでに生糸になって(株)細尾に納品されています。どんな製品になるのか、

楽しみにしているところです。

4 これまでの実績

上述のように2017年からスタートしたGMカイコの農家飼育ですが、2018年も、別の企業・団体が農研機構と許諾契約を結んで、春、夏、晩秋、初冬の4蚕期に行われました。飼育した農家も2戸に増えました。その飼育量や出荷量などは表のとおりです。

これまでの遺伝子組換えカイコ農家飼育の実績

蚕期	農家数	掃立量*	収繭量	単繭重
	戸	箱	kg	g
2017 初冬	1	4.0	176.1	1.88
春	1	2.5	131.3	1.98
夏	1	2.0	96.1	1.91
2018 晩秋	1	2.0	90.1	1.90
初冬	2	4.0	207.2	1.95
		4.5	243.0	1.92

* 掃立量：掃立は飼育を開始すること。掃立量の単位は箱で表し、群馬県の場合は1箱30,000頭

5 おわりに

2000年にカイコにおける遺伝子組換えの技術が開発されました。それから18年。当時はこの技術を現場に降ろすことは、遠い夢だと思っていました。しかし、「日本の近代化と戦後の復興を支えた蚕糸絹業の灯を消したくない、先人の知恵と努力を無に帰すことはできない。蚕糸絹業の再興を、この技術に賭けよう！」という、この壮大なプロジェクトに関わる全ての人々の熱い思いが、「GMカイコの農家飼育の実現」に結実したのです。

とはいえ、この新しい養蚕は、まだ始まったばかりです。この取り組みを、地に足

の付いた確実な歩みとなっていくよう、やるべきことはたくさんあります。

まず、GMカイコの種類を増やすことです。現在のところ、法律上、農家で飼育可能な品種は「GFPぐんま200」のみです。たくさんの方たちにGMカイコ繭・生糸に興味を持ってもらうために、他の蛍光色の系統、超極細生糸を生産する系統など、品種の増加を図っていきます。

それから、飼育作業の簡略化です。桑を採り与える、という点では従来通りですが、GMカイコを飼育する農家にとって最大の手間は、飼育残渣の処理です。実際には、養蚕以外の作業に追われて上簇後に粉碎する時間が取れなかったり、次の蚕期の準備のため30日間も残渣を閉じ込めておけなかったり、かといって残渣を運んで網をかけておけるような場所もない、ということもあります。2018年に飼育した1戸の農家では、そのような理由で、一年最後の蚕期である初冬蚕期の飼育のみでした。自然界には存在しないGMカイコの飼育は、生物多様性に影響を生じさせる恐れがあり、様々な規制等がありますが、作業を簡略化したいところです。そのため試験を重ね、実績を積み上げて、このような飼育条件が緩和された「普通の養蚕」に近い飼育方法を目指したいと思います。

GMカイコは、長い下積みを経てついにメジャーデビューを果たし、蚕糸絹業の再興、いや、新しい蚕糸絹業の創出をスタートさせました。骨身を惜しまず頑張っていますので、応援よろしくをお願いします！

「駒ヶ根シルクミュージアム」の紹介

駒ヶ根シルクミュージアム

館長 中垣雅雄

はじめに

信州伊那谷の上伊那地区の蚕糸業を牽引してきた「組合製糸龍水社」が平成9年をもって製糸部門を廃止し、同時期に「蚕種協同組合連合会上伊那社」も解散を決定した。駒ヶ根シルクミュージアムは、この龍水社と上伊那社の歴史の記憶と残された遺産を後世に伝承する記念館として、平成14年4月に開館（事業主体は駒ヶ根市）した。

「組合製糸龍水社」は、零細な製糸場が連携して、生糸の共同揚返しと共同販売をする製糸組合ではなく、「養蚕農家の出資による、直接養蚕農家の利益を守るための、養蚕農家だけで製糸工場を経営する全国で初めての組合製糸」であった。明治33年に施行された産業組合法により、日本初の「産業組合製糸」として認可（明治38年）された「上伊那蚕業合資会社（組合長 飯島国俊）」を中核とした近隣の7つの組合製糸が連合会設立の認可（大正3年）を受けて発足した連合会「龍水社（初代会長 飯島国俊）」は、一流の大製糸工場に対抗できる長野県初の産業組合連合会であった。養蚕農家の出資によって設立した「組合製糸龍水社」の成功は、農業協同組合など協同組合運動の源流となり、農村救済に大きな



写真1 展示室の入り口

功績を残したという輝かしい歴史がある。

養蚕農家が全国に先駆けて、自らの出資で組合立の製糸会社を設立した背景として、1) 上伊那地区には製糸工場が少なく、地区の産繭を消化しきれない状態であった、2) 養蚕農家は繭の発蛾を恐れて仲買人や工場の言いなりに繭を買い叩かれる上に、製糸業者の破産に遭って繭代の取れないことも度々あった、という事情があった。

1. 展示室

常設展示室と特別展示室、ミニシアターを備えている。常設展示室の入り口には、日本の代表的伝統織物の反物20点ほど（山形の紅花紬、新潟の小千谷縮、石川の牛首紬、茨城・栃木の結城紬、鹿児島の大島紬、沖縄の久米島紬など）が天井を這うように

ディスプレイしてあり、圧巻である（写真1）。一箇所で全国の代表的伝統織物が見られるのは当館だけではと自負している。この入り口を通り過ぎると伊那谷の昭和初期の養蚕農家が復元してあり、そこには古い機織り機や桑籠、蚕棚、蚕箔、簇、毛羽取り機などの養蚕道具が展示してある（写真2）。更に進むと、①歴史の道、②龍水社の道、③シルク利用の道、④カイコの道、⑤織物の道の五コーナーに分けて展示してあり、養蚕に関する歴史や蚕のからだの仕組みなどが学習できる。

①のコーナーでは、江戸時代の養蚕技術書「養蚕秘録」、そのフランス語訳「YO-SAN-FI-ROK」（日本に数冊しかない貴重本）などを展示している。また、皇后様が皇室の御養蚕所で蚕を飼っておられるご様子を写真パネルで紹介している。駒ヶ根市出身の明治の財界人、「天下の糸平」こと田中平八の衣装、自筆の手紙、硯などを展示している。

②のコーナーでは、龍水社・上伊那社の創設・発展に貢献した歴代会長の紹介パネ

ル、歴史資料、廃業時に稼働していた自動繰糸機、セリプレーン検査機、括造り機、蚕種製造に関わる道具などを展示している。

③のコーナーでは、身体に優しいシルクの秘密、衣料としての特性や衣料以外の分野への利用などをわかりやすく解説したパネルとともに、シルクパウダーを練りこんだ石鹸、化粧品、桑の実のジャムやワインなどの加工食品を展示している。世界の民族衣装数点も展示している。

④のコーナーでは、蚕の生活環が一目でわかるように孵化幼虫から成虫までの各発育ステージの拡大精密模型を展示している。また、全国でここにしかない実物の30倍スケールの蚕幼虫（5齢幼虫の全長は約2.4mで大きさ日本一！）と蛹の精密模型と、5齢幼虫の体の内部構造がわかるようにした回転模型は、見応えがある（写真3）。カイコガ科近縁種の標本なども展示している。来館者がいつでも蚕に出逢えるよう、生きた蚕幼虫を動態展示している。

⑤のコーナーでは、明治・大正期の糸繰りに関連した道具や機械を展示している。



写真2 復元した養蚕農家



写真3 蚕の巨大精密模型と回転模型

手回しの座繰り器、足踏み式繰糸器、撚糸器、絹ガラ紡績糸を作るガラ紡機などを展示している。

ミニシアター： 45名収容のシアターがあり、「カイコの一生」、「龍水社のあゆみ」などを紹介するビデオを常時観ることができる。

特別展示室： 幅16m×奥行2mの前面ガラス張り陳列室を備えた延べ床面積100㎡の展示室がある。

2. 特別展示

蚕糸に関連した特別展を毎年、春、夏、秋の年3回実施している。春と秋には恒例の特別展として、「まゆクラフト公募展」、「現代手織物クラフト公募展」を開催し、夏には様々な企画展を開催している。毎回、特別展の図録を作成し、関係者や機関に配布するとともに販売も行っている。

「まゆクラフト公募展」は、愛好者が制作した繭クラフト作品をご観覧いただくことにより、日本の養蚕を取り巻く状況などを思い出していただくことが、養蚕文化の

伝承の一助になればと願い、毎春開催している。

当ミュージアムは、絹などの天然繊維を中心とした「衣＝織物」の知識、技術、歴史などの情報伝達の間でもある。「現代手織物クラフト公募展」は、手織物の作家たちの独創的で優れた応募作品を展覧し、広く織物愛好家に向けて紹介するとともに、手織物作家の自立の道を拓く支援の間となることを目的として、毎秋開催している。絹の需要促進と絹織物などの着物文化の継承に役立てばと願っている。

夏の企画展では、毎年、蚕や絹に関わる様々な特別展示を行っている。最近では、「世界の様々な国のカイコと繭（2018年度）」、「皇室の御養蚕と信州（2017年度）」、「蚕と蚕具の歴史（2016年度）」などの特別展を開催してきた。

3. 体験工房

体験工房では、繭人形・繭花飾り（コサージュ）などを作る「まゆクラフト体験」、ハンカチや巾着を染める「染色体験」、座

繰り器を使う「糸繰り体験」、「飾り紐体験」、コースターやランチョンマットを織る「機織り体験」などができる。何れも専任講師の丁寧な指導により30～40分程度で作品が完成する。体験は、大人から子供まで気軽に挑戦でき、楽しめる。また、「伊那紬の着物着付け体験」もできる。

4. 館外活動

蚕や絹の理解促進につながる学習支援活動として、地域の小学校などからの要請に応じて出張し、蚕卵の手配や蚕の飼育法などを指導するとともに、生徒たちが育てた蚕の繭での糸繰りや繭クラフト工作の指導のための出前講座を行っている。

5. レストランとミュージアムショップ・農産物直売所

当ミュージアムに併設されたレストランでは、バイキング方式で地元の食材をふんだんに使った料理が提供されており、味・ボリュームとも評判で地元の人たちは勿論のこと、名古屋方面からのツアーのお客さんなどで連日の賑わいを見せている。ミュージアムショップ・農産物直売所では、婦人物のシルク製品や小物、体験工房で作られたオリジナルの染織品や繭細工などを販売し、地元農家が作った新鮮な野菜や加工品などを提供している。

■問い合わせ先：

駒ヶ根シルクミュージアム

〒399-4321

長野県駒ヶ根市東伊那 482 番地

TEL：0265-82-8381

FAX：0265-82-8380

イベント情報

●ジャパンシルクセンター 純国産宝絹 試作展

純国産絹の特徴と蚕糸・絹業提携グループ個々の技術を生かし、毎年製品開発を行っています。今回は、4提携グループにより産学共同手書き友禅ストールをはじめ、手すき絹紙作品等の開発に挑戦しました。

〈会期〉2月4日(火)～8日(金) 10:00～18:00 (最終日は16:00まで)

〈主催〉蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会

〈会場〉ジャパンシルクセンター 〒100-0006 千代田区有楽町1-9-4 蚕糸会館1階

Tel: 03-3215-1212

●「美しいキモノアカデミー」特別出張講座1 「皇室の御養蚕」

「美しいキモノアカデミー」特別出張講座1が蚕糸会館で開かれます。今回の講座は、(一財)大日本蚕糸会研究員(宮内庁紅葉山御養蚕所主任)代田丈志さんによる講演会「皇室の御養蚕」です。

日時: 2月8日(金) 13:00～14:30

講師: 代田丈志氏(一財)大日本蚕糸会研究員[宮内庁紅葉山御養蚕所主任]

会場: 蚕糸会館6会 会議室

〒100-0006 千代田区有楽町1-9-4

詳細は、下記にお問い合わせ下さい。

「美しいキモノ」編集部「美しいキモノ・アカデミー」係 TEL: 03-6384-5381

●シルク博物館

シルク・サロン ～学芸員による講座～

第4回「花のきものを楽しむ」

当館所蔵の花を題材とした作品を照会。

ホールでのスライド写真と展示会場の案内を予定しています。

開催日: 2月23日(土)

講師: 学芸員 大野美也子

〈主催〉シルク博物館

〈会場〉シルク博物館 〒231-0023 横浜市中区山下町1番地

Tel: 045-641-0841

●日本絹の里 第85回特別展「上毛かるたでめぐる絹文化」

「繭と生糸は日本一」「桐生は日本の機どころ」「日本で最初の富岡製糸」など、群馬県民にとって大変馴染みがあり、多くの人に親しまれている群馬の郷土かるたである「上毛かるた」になぞらえて、群馬の産業・文化の中心にあった養蚕や絹産業を紹介します。

〈会期〉平成30年12月15日(土)～平成31年2月4日(月) 9:30～17:00

休館日: 毎週火曜日(祝日の場合は翌日)、12/27～1/5 *1/3臨時開館

〈主催〉群馬県立日本絹の里

〈会場〉群馬県立日本絹の里 〒370-3511 群馬県高崎市金古888-1

Tel: 027-360-6300

●岡谷蚕糸博物館 収蔵品展「中国古代復元絹織物 ～絹がつづる王朝染織の美と技～」

絹の故郷にしてシルクロードの始発点である中国では、紀元前殷（いん）代の遺跡から紋様のある絹織物が出土し、高度な染織技術があったことがわかっています。それからおよそ、3,000年にわたる歴史のなかで、織りや刺繍の様々な技法が生まれ流行し、熟成されてきました。中国の蘇州絲綢（そしゅうしちゅう）博物館は、古代の絹織物を調査研究して忠実な復元品を製作し、高い評価を得ています。岡谷市は同館と平成10年に学術協定を締結し、殷王朝（B.C. 16世紀～B.C. 11世紀）から清王朝（17世紀～20世紀）までの古代復元絹織物43点、清王朝以降の装飾品等の原品8点の提供を受けました。これまでに当館の企画展等でご紹介してきましたが、今回初めて51点すべてを、前後期に分けて一挙公開いたします。中国王朝における染織品の変遷を一望できる貴重なコレクションをご覧ください。

〈会期〉前期 2018年11月8日（木）～2019年1月29日（火）9:00～17:00

後期 2019年1月31日（木）～2019年4月14日（日）

*前期、後期ですべての展示品が入れ替わります。

休館日：水曜日・祝日の翌日、12/27～1/3 その他臨時休館あり

〈関連イベント・ワークショップ〉

「ギャラリートーク（展示品解説）」

日時：2019年2月3日（日）13:30～14:30

講師：岡谷蚕糸博物館 館長 高林千幸、学芸員 林 久美子

会場：企画展示室

参加費：無料（要入館料）

「つづれ織りのブローチ」づくり

「緋糸龍袍（かくしりゅうほう）」などに見られる“つづれ織り”の技法でブローチを作ります。

日時：1月19日（土）、2月17日（日） 各日13:30～16:00

定員：15名（要申込）

参加費：500円

シルクの糸で「中国結び房飾り」

中国伝統の紐結びによる飾りを絹の糸で作ります。

日時：3月2日（土）13:30～16:00

定員：15名（要申込）

参加費：500円

〈主催〉岡谷蚕糸博物館 シルクファクトおかや

〈会場〉岡谷蚕糸博物館 〒394-0021 長野県岡谷市郷田1-4-8

Tel: 0266-23-3489

E-mail: hakubutsukan@city.okaya.lg.jp

平成 30 年度第 3 次分の純国産絹マーク使用許諾状況

純国産絹マークの平成 30 年度第 3 次審査委員会を平成 30 年 11 月 26 日（月）に開催しました。今回の申請は 8 者で、新規 1 者 2 品目、使用許諾されている 7 者のうち製品の追加 2 者 3 品目、履歴の追加 4 者 6 品目、数量の追加 2 者 2 品目、製品の変更が 1 者 4 品目の申請がありました。これらの申請を審査委員会で審査した結果、8 者 18 品目に対し、12 月 3 日（月）付けで純国産絹マークを使用許諾する旨通知しました。

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (繭生産地・企業等)
(新規) (有) 綵巧 代表者名：室門恒明 (担当者：室門耕一郎) 〒 603-8487 京都市北区平野宮本町 85 番地 TEL：075-461-5394 表示者登録番号 231	先染反物（御召）	100 反	蚕品種 錦秋×鐘和 繭生産 JA 前橋市管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸（株） 染 色 足利染工 製 織 自社
	先染帯地 (名古屋帯（組帯）)	220 本	蚕品種 錦秋×鐘和 繭生産 JA おやま管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸（株） 染 色 (株) 三田染工所 製 織 自社
(製品の追加) (株) やまと 代表者名：田村裕二 (担当者：藤澤真吾、小川裕久) 〒 151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 5 丁目 27 番 3 号 TEL：03-3356-2171 表示者登録番号 059	先染帯地（袋帯） (特例)	60 本	蚕品種 錦秋×鐘和 繭生産 JA おやま管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸（株） 染 色 (株) 今江染色 製 織 (有) 織匠小平
	先染帯地（袋帯） (特例)	85 本	蚕品種 春嶺×鐘月 繭生産 JA おやま管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸（株） 製 織 (株) アシヨネ 精 練 丹後織物工業組合

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (繭生産地・企業等)
(製品の追加) (株) ソーホー 代表者名：奥村尚司 (担当者：藤原浩充) 〒600-8357 京都市下京区猪熊通五条下る柿本町 606-1 TEL：075-353-8802 表示者登録番号 200	(製品の追加) ①先染反物 (御召)	209 反	蚕品種 春嶺×鐘月、ぐんま 200 繭生産 JA おやま管内養蚕農家、富岡シルクブランド協議会養蚕農家 製糸 碓氷製糸 (株) 染色 吉見染工 製織 柴田織物 精練 丹後織物工業組合
	(履歴の追加) ②白生地 (表地)	30 反	蚕品種 ぐんま 200 繭生産 富岡シルクブランド協議会養蚕農家 製糸 碓氷製糸 (株) 製織 (株) アシヨネ 精練 丹後織物工業組合
	(履歴の追加) ③白生地 (表地)	30 反	蚕品種 春嶺×鐘月 繭生産 JA おやま管内養蚕農家 製糸 碓氷製糸 (株) 製織 (株) アシヨネ 精練 丹後織物工業組合
	(履歴の追加) ④白生地 (表地)	60 反	蚕品種 ぐんま 200 繭生産 JA 碓氷安中管内養蚕農家 製糸 碓氷製糸 (株) 製織 (株) アシヨネ 精練 丹後織物工業組合
	(数量の追加) ⑤白生地 (表地)	30 反	蚕品種 春嶺×鐘月 繭生産 JA 高崎市管内養蚕農家 製糸 碓氷製糸 (株) 製織 戸田織物 精練 丹後織物工業組合
(履歴の追加) 織匠万勝 代表者名：前田章 (担当者：前田健) 〒604-8267 京都市中京区姉小路通堀川東入る鍛冶町 173-1 TEL：075-257-5747 表示者登録番号 026	先染帯地 (袋帯)	102 本	繭生産 JA 佐波伊勢崎 製糸 JA 常陸管内養蚕農家 染色 碓氷製糸 (株) 織 自社
	先染帯地 (名古屋帯)	201 本	繭生産 JA 赤城橘管内養蚕農家 製糸 碓氷製糸 (株) 染色 自社
(履歴の追加) (株) 枅屋高尾 代表者名：高尾朱子 (担当者：高尾朱子) 〒603-8327 京都市北区北野西白梅町 77 番地 TEL：075-464-0500 表示者登録番号 038	先染帯地 (袋帯)	120 本	蚕品種 錦秋×鐘和 繭生産 JA 新田みどり管内養蚕農家 製糸 碓氷製糸 (株) 燃糸 昭和燃糸工業 (株) 染色 (有) 寺井染工 製織 自社

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (繭生産地・企業等)
(履歴の追加) (株) すずのき 代表者名：高田陽一 (担当者：大田顕資) 〒151-0053 東京都渋谷区代々木一丁目30番7号 TEL：03-5308-5011 表示者登録番号 201	白生地（表地）	100 反	蚕品種 春嶺×鐘月 繭生産 JA おやま管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸（株） 製 織 （株）アシヨネ 精 練 丹後織物工業組合
(製品の変更) (株) 高島屋 代表者名：木本茂 (担当者：霧生小牧) 〒542-8510 大阪市中央区難波5-1-5 TEL：06-6631-1101 表示者登録番号 030	①後染反物 (訪問着)	1 枚	蚕品種 小石丸 繭生産 柳沢敏明・黛嘉重 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 南久ちりめん（株） 染色加工 （株）大羊居
	②後染反物 (訪問着)	1 枚	蚕品種 小石丸 繭生産 柳沢敏明・黛嘉重 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 南久ちりめん（株） 染色加工 千切屋（株）
	③後染反物 (訪問着)	1 枚	蚕品種 小石丸 繭生産 柳沢敏明・黛嘉重 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 南久ちりめん（株） 染色加工 （株）千總
	④後染反物 (訪問着)	1 枚	蚕品種 小石丸 繭生産 柳沢敏明・黛嘉重 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 南久ちりめん（株） 染色加工 （株）矢代仁
(数量の追加) (株) 伊と幸 代表者名：北川幸 (担当者：北川幸) 〒604-8176 京都市中京区御池通室町東入竜池町448-2 TEL：075-211-2361 表示者登録番号 035	白生地（帯地）	440 本	蚕品種 松岡姫 繭生産 JA ふくしま未来管内養蚕農家 製 糸 松岡（株） 製 織 奥田重之織物

次回の純国産絹マーク審査会の予定は次のとおりです。

純国産絹マークの使用許諾を申請される方は、事務局との事前協議を経た上で、下記の提出締切日までに、純国産絹マーク使用許諾申請書を提出してください。

次回審査会 平成 30 年度第 4 次：平成 31 年 2 月 25 日（月）

純国産絹マーク使用許諾申請書の提出締切日：平成 31 年 1 月 25 日（金）

一般財団法人 大日本蚕糸会

担当：岡島、小林、廣瀬

〒100-0006

東京都千代田区有楽町 1-9-4 蚕糸会館 6 階

TEL：03-3214-3500 FAX：03-3214-3511

E-mail：岡島：aokajima@silk.or.jp

小林：kobaei@silk.or.jp

廣瀬：hirose_takato@silk.or.jp

純国産絹マーク使用許諾者及び絹製品名一覧 平成30年12月3日（H30-第3次）現在

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
001	(株) 千總	京都市中京区	後染反物（振袖、訪問着、付下、色無地、色留袖、黒留袖、喪服）、胴裏
002	(株) 織匠田歌	京都市上京区	先染反物、後染帯地
004	(株) 丸上	東京都中央区	後染反物（色無地、小紋、付下、黒紋付）、後染帯地
005	(株) 坂本屋	茨城県土浦市	後染反物（色無地）、胴裏（灰汁浸け加工）
006	(有) 平原	福島県白河市	後染反物（色無地、黒紋付）
007	(株) 信盛堂	東京都清瀬市	後染反物（色無地、黒紋付）
008	(株) きものアイ	新潟県十日町市	後染反物（色無地）
009	(株) 上庵	岩手県北上市	後染反物（色無地、黒紋付）
010	(有) 樹（いづき）	秋田県横手市	後染反物（色無地、黒紋付）
011	(株) 銀座もとじ	東京都中央区	後染反物（作家作品）、後染帯地、先染反物（大島紬、結城紬、御召、作家作品）、先染帯地（織九寸帯、織角帯、作家作品）、白生地、和装小物（帯締、羽織紐）、八掛、胴裏
012	河瀬満織物（株）	京都市上京区	先染帯地
013	(有) 織匠小平	京都市北区	先染帯地
015	(株) 結華	静岡県清水町	後染反物（色無地、黒紋付）
016	(株) 絹回廊	東京都中央区	後染反物（色無地）
017	(有) 琴路屋	岩手県釜石市	後染反物（色無地、黒紋付）
018	(有) 大善屋呉服店	福島県会津若松市	後染反物（色無地、黒紋付）、後染帯地、白生地（表地）
019	丸善本店	福島県いわき市	後染反物（色無地、黒紋付）、白生地（表地）
020	呉服のささき	山形県天童市	後染反物（色無地、黒紋付）
021	日本蚕糸絹業開発協同組合 （絹小沢（株））	群馬県高崎市	裏地（胴裏（ぐんま羽二重、ぐんまレピア、ぐんま200、灰汁浸加工、トルマリン加工）、八掛、比翼地）、長襦袢地、後染反物（作家作品、紋付地）、白生地（世紀二一、上州絹星・ぐんま200、新小石丸）、後染帯地（（冬物・夏物）：うるし糸が5%を超えるもの）、寝衣（うぶ着、おくるみ）、和装小物（袷紗）
022	宮階織物（株）	京都市上京区	先染反物、後染反物
023	21世紀の絹を考える会	京都府城陽市	後染反物（色無地、訪問着）、先染帯地（袋帯（草木染、唐織））
024	碓氷製糸農業協同組合	群馬県安中市	白生地、マフラー
025	丸幸織物（有）	京都府京丹後市	白生地
026	織匠万勝	京都市中京区	先染帯地（袋帯、名古屋帯）、先染反物（御召類）、後染反物（色無地）、先染帯地（袋帯：金銀糸が5%を超えるもの）
027	(有) 織道楽塩野屋	京都府亀岡市	洋装品（マフラー、シャツ、ニット（ウオーマー、腹巻、手袋、靴下））

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
028	(株) 丸万中尾	滋賀県長浜市	後染反物 (江戸小紋、小紋、付下、友禅、色無地)、後染帯地、白生地 (表地)
029	(株) むらかね	青森県八戸市	後染反物 (色無地、黒紋付)
030	(株) 高島屋	大阪市中央区	後染反物 (振袖、七五三着物、色無地、訪問着、黒留袖)、白生地 (長襦袢地、胴裏)、ニット (靴下)、風呂敷
031	(株) さが美	神奈川県平塚市	後染反物 (黒紋付 (冬用・夏用)、色無地)
032	(有) まるけい	静岡県富士市	後染反物 (色無地、黒紋付)
033	(有) 特選呉服専門店後藤	青森県むつ市	後染反物 (色無地、黒紋付)
034	(株) 小いけ	山形県鶴岡市	後染反物 (色無地、黒紋付、小紋)
035	(株) 伊と幸	京都市中京区	後染反物 (色無地、訪問着)、白生地 (表地、胴裏、帯地)、白生地 (表地 (天蚕糸交織))、白生地 (帯地 (天蚕糸交織))、婦人用ブラックフォーマル地、長襦袢
036	(株) 四季のきものおおにし	東京都杉並区	後染反物 (色無地、黒紋付)、後染帯地、白生地 (表地)
037	(株) 和幸	埼玉県久喜市	後染反物 (色無地、黒紋付)
038	(株) 榎屋高尾	京都市北区	先染帯地 (袋帯)
039	(株) つるや	埼玉県川越市	後染反物 (色無地、黒紋付)、白生地 (表地)
040	(株) 越後屋	千葉県市川市	後染反物 (色無地、黒紋付)
041	(株) 小倉商店	茨城県結城市	先染反物 (結城紬)、先染帯地 (結城紬)、白生地 (結城紬)
042	染織家柳崇	東京都世田谷区	先染反物、先染帯地
043	染織家児玉京子	沖縄県竹富町	先染反物
044	草木染工房山村 山村多榮子	東京都八王子市	先染反物、先染帯地、先染帯地 (金銀糸が5%を超える)、先染服地、ストール
045	手織りよおん 長嶺亨子	沖縄県沖縄市	先染反物、先染帯地、ストール
046	祝嶺染織研究所	沖縄県沖縄市	先染反物、先染帯地
047	(株) 龍工房	東京都中央区	帯締
048	からん工房 深石美徳	沖縄県石垣市	先染反物 (紋紬、緋)、先染帯地
049	たわた工房	沖縄県那覇市	先染反物、先染帯地
050	山音 (株)	京都市中京区	後染反物 (色無地 (変三越、駒紬))
051	やまと (株)	京都市下京区	後染反物
053	桜井 (株)	京都市北区	先染帯地
054	有栖川織物 (有)	京都市上京区	先染帯地
055	太田和 (株)	京都市中京区	先染反物 (結城紬)、先染帯地 (結城紬)
056	(株) 岩田	京都市中京区	先染帯地
057	(有) 神原呉服店	千葉県銚子市	後染反物 (色無地、黒紋付)
058	浅山織物 (株)	京都市北区	先染帯地
059	(株) やまと	東京都渋谷区	先染帯地、先染帯地 (金銀糸が5%を超えるもの)、白生地 (加賀友禅用)、先染着尺 (加賀友禅用)

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
060	田中種 (株)	大阪市中央区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠)、黒紋付、加賀友禅、色無地、すかし織着尺)、後染帯地 (九寸名古屋帯)、ニット (靴下、ネック&ボディ、ショルダー、アーム、タンクトップ、腹巻、手袋、ピロケース、肌襦袢、ネックウォーマー)、真綿布団、ハーフケット、布団カバー
061	(株) 京扇	東京都中央区	後染反物 (色無地)、胴裏 (パールトーン加工)
062	(株) なごみや	横浜市都筑区	後染反物 (色無地、黒紋付)
063	丸池藤井 (株)	京都市中京区	後染反物 (色無地)、八掛
064	久保商事 (株)	京都市中京区	和装小物 (帯揚、半衿)
065	加賀グンゼ (株)	石川県小松市	胴裏
066	千切屋 (株)	京都市中京区	後染反物 (訪問着、付下)、後染帯地
067	荒川 (株)	京都市下京区	和装小物 (帯締、帯揚)
068	第一衣料 (株)	東京都中央区	後染反物 (色無地)
069	(株) 紅輪	川崎市宮前区	後染反物 (色無地)
070	装いの道 (株)	東京都千代田区	白生地 (帯地、表地)、胴裏 (トルマリン加工、灰汁浸加工、ぐんま 200、新小石丸)
071	(株) 高橋屋	岩手県一関市	胴裏 (灰汁浸加工)
072	おお又 (株)	大阪市旭区	胴裏 (灰汁浸加工)、ニット (靴下)
073	(株) 天野屋呉服店	栃木県小山市	胴裏 (ぐんま 200 (灰汁浸加工))、白生地 (表地)
074	(株) きもの潮見	愛媛県西条市	胴裏 (パールトーン加工)
075	(株) とみひろ	山形県山形市	胴裏 (酵素精練)
076	(株) 細安	福井県福井市	胴裏 (酵素精練)
077	京和きもの (株)	神奈川県厚木市	胴裏 (酵素精練)
078	(株) まるため	長野県長野市	胴裏 (トルマリン加工、パーリー加工)
079	(株) 小川屋	群馬県前橋市	胴裏 (トルマリン加工、灰汁浸加工)
080	(株) エムラ	山口県防府市	胴裏 (酵素精練)
081	(株) 荒井呉服店	東京都八王子市	胴裏 (酵素精練)
082	(株) 牛島屋	富山県富山市	胴裏 (酵素精練)、後染反物 (小紋)
083	(株) 谷呉服店	福岡県筑紫野市	胴裏 (酵素精練)
084	(株) 登美屋	岩手県北上市	胴裏 (パールトーン加工)
085	(株) 川平屋	愛知県豊田市	胴裏 (パールトーン加工)、後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
086	丸専第一衣料 (株) (丸専きもの)	新潟県長岡市	胴裏 (パールトーン加工)
087	(株) 大丸松坂屋百貨店	東京都江東区	裏地 (胴裏、比翼地 (振袖用))、長襦袢地
088	西陣織工業組合	京都市上京区	マフラー、セーター、カーディガン、ショール、ネクタイ
089	(株) あきやま	宮崎県綾町	先染反物、洋装品 (ショール、マフラー)
090	藤井絞 (株)	京都市中京区	後染反物 (色無地)
092	(有) 結城屋	兵庫県洲本市	白生地 (表地)

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
093	(株) ウメシヨウ	岐阜県瑞穂市	白生地 (表地)
095	(有) カシワギ	山梨県富士吉田市	寝具寝装品 (冬用・夏用・合用薄絹ふとん、ブランケット)、洋装品 (スーツ地、ネクタイ、服飾品 (スカーフ、ストール、シャツ))
097	(株) 平田組紐	東京都豊島区	帯締、帯締 (金銀糸が5%を超えるもの)、羽織紐 (男物、女物)
098	(株) 菱健	京都市中京区	後染反物 (色無地)
099	西野 (株)	京都市上京区	帯締、帯締 (金銀糸が5%を超えるもの)
100	京商 (株)	鳥取県米子市	後染反物 (色無地、黒紋付)
101	(株) 猪井	新潟県長岡市	後染反物 (色無地)、後染帯地
102	(株) たちばな	新潟県新発田市	後染反物 (色無地)、後染帯地
103	(株) 丸富美	新潟県十日町市	後染反物 (色無地)
104	(株) 絹もの屋まつなが	新潟県三条市	後染反物 (色無地)
105	(株) 山正山崎	愛知県豊橋市	後染反物 (色無地、小紋 (変一越、紋意匠))
106	(有) こくぶん呉服店	福島県福島市	後染反物 (色無地)
107	(株) 染織近藤	岡山市北区	後染反物 (色無地、小紋 (変一越、紋意匠))
108	(株) 宮川呉服店	北海道湧別町	後染反物 (色無地、付下)
109	(株) 和らいふ	札幌市中央区	後染反物 (色無地)
110	(有) きものいなもと	大阪市天王寺区	後染反物 (色無地)
111	(株) 世きね	東京都中央区	後染反物
112	(株) 西陣まいづる	京都市上京区	先染帯地 (袋帯 (金銀糸が5%を超えるもの)、九寸帯 (金銀糸が5%を超えるもの)、紹九寸帯 (金銀糸が5%を超えるもの))
113	奥順 (株)	茨城県結城市	先染反物 (結城紬)、先染帯地 (結城紬)
114	りょうぜん天蚕の会	福島県伊達市	ショール (天蚕紬糸、天蚕ハイブリッド)
115	(有) 金屋	新潟県上越市	後染反物 (色無地)
116	(株) 鶴屋百貨店	熊本市中央区	胴裏 (酵素精練)、先染反物 (結城紬)
117	黄八丈めゆ工房	東京都八丈島	先染反物 (黄八丈)
118	京屋呉服店	長野県塩尻市	後染反物 (色無地)
119	(資) 車屋呉服店	横浜市南区	後染反物 (色無地、江戸小紋)、白生地 (表地)
120	宮崎 (株)	茨城県結城市	先染反物 (結城紬)
121	(有) 内海呉服店 きもの千歳屋	東京都世田谷区	白生地 (表地 (色無地、訪問着))
122	長島繊維 (株)	栃木県足利市	後染反物 (色無地、小紋、付下、訪問着)、後染帯地
123	(株) しょう美	広島市西区	後染反物 (色無地)
124	(資) 治田呉服店	群馬県富岡市	後染反物 (色無地)
125	(株) 丸十	大阪府東大阪市	後染反物 (小紋)、ニット (靴下)
126	(株) 竹田嘉兵衛商店	名古屋市緑区	胴裏 (酵素精練)
127	(有) 樋口屋京染店	埼玉県鴻巣市	白生地 (表地用 (紋意匠))

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
128	大門屋	福井県大野市	白生地(牛首紬)、後染帯地(牛首紬)、ショール(牛首紬)、先染反物(飯田紬)
129	(株)加藤萬	東京都中央区	和装小物(帯揚、半衿)
130	(株)しゃらく	愛媛県新居浜市	後染反物(小紋)
131	(資)山中商店	名古屋市中区	後染反物(小紋)
132	きもの処あだち	大阪府藤井寺市	後染反物(小紋)
133	西川産業(株)	東京都中央区	寝具寝装品(掛布団)
134	繭工房華美	宮城県塩竈市	寝衣(長肌着、短肌着)
136	(株)和想	鳥取県鳥取市	後染反物(小紋)
137	(株)高島屋呉服店	島根県益田市	後染反物(小紋)
138	富岡シルクブランド協議会	群馬県富岡市	ネクタイ、禪、マフラー(手織り)
139	(株)丸年呉服店	石川県金沢市	後染反物(小紋)
140	(株)染織館	徳島県徳島市	後染反物(小紋)
141	(株)京ろまん	奈良県奈良市	後染反物(小紋)、ニット(靴下)
142	五嶋(株)	東京都文京区	帯締
143	(株)わふくや	浜松市中区	長襦袢地
144	(株)布屋呉服店	静岡県富士宮市	胴裏(トルマリン加工)、後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
145	(有)明石屋	東京都調布市	後染反物(色無地)、後染帯地
146	宮井(株)	京都市中京区	風呂敷
147	(株)ナカノ	大分県大分市	後染反物(小紋(変一越、紋意匠)、加賀友禪)
148	(株)芦田呉服店	京都府綾部市	後染反物(色無地、小紋(変一越、紋意匠))
149	(株)甲斐絹座	山梨県富士吉田市	ネクタイ、服飾品(スカーフ、ストール、トランクス)、パジャマ、袱紗
150	(有)さいとう呉服店	千葉県市川市	後染反物(色無地、付下)
151	(株)西松屋	兵庫県姫路市	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
152	(株)西尾呉服店	大阪市福島区	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
153	勝山織物(株)	京都市北区	先染帯地(金銀糸が5%を超えるもの)
154	(有)石川	群馬県みどり市	後染反物(型友禪、羽二重色無地)、先染反物(ジャガード織)
156	那覇伝統織物事業協同組合	沖縄県那覇市	先染反物、先染帯地、かりゆしウェア、ショール
157	(株)ふじや	福岡県朝倉市	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
158	きものおかだ	兵庫県香美町	後染反物(小紋)
159	(株)JS	山梨県富士吉田市	寝具寝装品(ふとん、ふとんカバー)、洋装品(スーツ地、コート地、スカート地、シャツ、ワンピース地)、服飾品(スカーフ、ストール、ネックカバー、アームカバー、レッグカバー)
160	(株)マルシバ	東京都中央区	裏地(胴裏)、和装小物(袱紗)、ネクタイ、帯地(白塩瀬)
161	(株)みつわ	大阪府大東市	後染反物(小紋)
162	福続織物(株)	福岡市西区	先染帯地(本袋男帯、八寸名古屋帯)

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
163	(株) 大谷屋	新潟市中央区	白生地(表地)
164	(株) 東京藤屋 (きものレディ着付け学院)	東京都品川区	白生地(表地)
165	(株) 染織こうげい	東京都中央区	白生地(表地)
166	近江真綿振興会	滋賀県米原市	寝具寝装品(布団、膝かけ)、ショール
167	(株) にしむら	兵庫県西脇市	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
168	(有) きものおおにし	大阪府東大阪市	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
169	(株) コノエ (そめの近江)	東京都豊島区	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))、ニット(靴下)
170	(株) つたや	大阪府枚方市	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
171	(株) 京呉服小糸伸輔の店	熊本市東区	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
172	(株) マエノ	茨城県石岡市	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
173	(株) 本きもの松葉	大阪府富田林市	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
174	(有) 山田呉服店	長野県諏訪市	白生地(変り縮緬)、先染反物(大島紬)
175	(株) 呉服のながいけ	長崎県南島原市	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
176	(株) 京呉服平田	福井県福井市	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
177	(株) 布四季庵ヨネオリ	山形県米沢市	先染反物(置賜紬)、ストール
178	奄美島絹推進協議会	鹿児島県龍郷町	先染反物(大島紬)、先染帯地(大島紬)
179	(株) 宮坂製糸所	長野県岡谷市	先染帯地(八寸名古屋帯)
180	(有) シンセイ	長野県松本市	ニット(腹巻、靴下)
181	(株) 百花	横浜市中区	後染反物(小紋(変一越))
182	京呉服好一(株)	京都市北区	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
183	(株) パールトーン	京都市右京区	胴裏(パールトーン加工)
184	きもの専科まさ井	兵庫県三木市	後染反物(小紋(変一越))
185	マテリアル ローブ 磨	東京都練馬区	後染反物(小紋(変一越))
186	(株) せんば呉服	兵庫県尼崎市	後染反物(小紋(変一越、紋意匠)、訪問着)、先染反物(緋着尺)、後染帯地
187	(株) 三越伊勢丹	東京都新宿区	白生地(表地)、帯締、羽織紐、帯締(金銀糸が5%を超えるもの)、ジャケット地
188	青山きもの(株) (青山きもの学院)	東京都港区	白生地(表地、夏物表地)
189	ニット青木(株)	東京都品川区	ニット(スーツ・パンツ、スーツ・スカート、ジャケット、アンサンブル、インナー)
190	渡豊工房	山形県山辺町	先染反物(綾御召(男物、女物)、市松綾御召(草木染め)、もじり織(草木染)、もじり織)、裏地(紬八掛)、先染ストール
191	(株) リンクピース	福岡市博多区	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
192	(有) 新宮(きもの宮下)	宮崎県宮崎市	後染反物(小紋(変一越))
193	アトリエITO 伊藤峯子	沖縄県那覇市	先染反物、先染帯地
194	遊生染織工房 築城則子	北九州市八幡東区	先染反物
195	染織家 杉浦晶子	愛知県高浜市	先染反物、先染帯地

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
196	(株) 夢工芸染の新井	東京都足立区	白生地 (変り縮緬)、先染反物 (大島紬)
197	(株) 嵯が野	埼玉県川越市	白生地 (変り縮緬)、先染反物 (大島紬)
198	(株) カインドウェア	東京都千代田区	ストール、ネクタイ
199	(株) 新田	山形県米沢市	後染反物 (ぼかし着尺)
200	(株) ソーホー	京都市下京区	白生地 (紋意匠無地縮緬・紋意匠縮緬)、後染反物 (本加賀訪問着)、先染反物 (大島紬)、先染帯地 (袋帯)、先染反物 (御召)
201	(株) すずのき	東京都品川区	後染反物 (訪問着・色無地)、白生地 (表地)
202	メーカーズシャツ鎌倉 (株)	神奈川県鎌倉市	ニット (肌着)
203	(株) 丸本岩崎	北海道函館市	裏地 (胴裏絹)
204	(株) 緒方商店 (きもの心おがた)	愛媛県八幡浜市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
205	富士新幸 (株)	山梨県都留市	真綿布団
206	(有) 浅井ローケツ	京都市右京区	後染反物 (色無地・藍染)
207	(有) 呉服のうめね	北九州市小倉北区	白生地 (変一越)
208	(株) ADESSO (きもの工房一休)	神戸市中央区	白生地 (変一越)
209	森秀織物 (株)	群馬県桐生市	先染反物 (御召)
210	(株) 龍村美術織物	京都市中京区	先染帯地 (本袋帯 (金銀糸が5%を超えるもの))
211	(株) 長沼 (長沼静きもの学院)	東京都渋谷区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
212	(株) 国際商事	東京都板橋区	ショール
213	窪田織物 (株)	鹿児島県鹿児島市	先染反物 (大島紬)
214	染織家 村江菊絵	東京都目黒区	先染帯地 (作家作品)、先染反物
215	片倉工業 (株)	東京都中央区	ニット (靴下)
216	村田捺染加工 (有)	群馬県桐生市	ストール
217	(株) 京のきもの綾錦	京都市下京区	後染反物 (訪問着、小紋、色無地)
218	あや工房	沖縄県西原町	先染反物 (首里織)、先染帯地 (首里織)
219	Noble Silk (株)	東京都中央区	ニット (インナー、パンツ、ひざ掛け、ジャケット)
220	万兵 (株)	名古屋市中区	白生地 (表地)
221	横山 (株)	京都市中京区	後染反物 (小紋・訪問着)
222	(株) カネヒサクリエーション	石川県金沢市	白生地 (表地)
223	柳晋哉	東京都世田谷区	先染反物
224	(株) 一声	京都市下京区	白生地 (表地)
225	(株) ヤマノホールディングス きもの事業本部	東京都渋谷区	後染反物 (小紋・訪問着)
226	山口美術織物 (株)	京都市山科区	白生地 (表地)
227	(株) 大翻	名古屋市中区	セリシン靴下、セリシン手袋
228	(株) 中忠商店	京都市上京区	セリシン靴下、セリシン手袋
229	(株) 帛撰	京都市北区	先染帯地 (名古屋帯、袋帯 (金銀糸が5%を超えるもの))
230	(株) 京朋	京都市中京区	白生地 (表地)
231	(有) 綵巧	京都市北区	先染反物 (御召)、先染帯地 (名古屋帯 (組帯))

月日	活 動 内 容 等
10/2	平成 30 年度蚕糸絹文化振興対策事業第 3 回審査会 (東京都有楽町 蚕糸会館)
10/25	遺伝子組換えカイコ事業に関する打合せ (群馬県)
11/2 ~ 4	伝統工芸ふれあい広場・福岡への協力 (福岡県)
11/2 ~ 3	実りのフェスティバルへの協力 (東京都)
11/6 ~ 7	千總純国産絹製品グループ主催の養蚕農家研修会への参加 (宮城県)
11/6	シルク・サミット 2018「明治 150 年」記念シンポジウム
11/6	遺伝子組換えカイコ事業に関する打合せ (群馬県)
11/9 ~ 12	純国産生糸振興・碓氷製糸提携グループ・西陣織物作品展 (東京都有楽町 ジャパンシルクセンター)
11/20	蚕糸功労者表彰式 (帝国ホテル)
11/26	純国産絹マーク審査委員会 (平成 30 年度第 3 次) (東京都有楽町 蚕糸会館)
12/6	役員・評議員懇談会及び臨時理事会 (東京都新宿)
12/10 ~ 11	伊勢神宮農事功労者表彰式への参加 (三重県)
12/13	高品質繭生産技術研修会 (主催：栃木県小山地区養蚕産地育成協議会) への出席 (群馬県)

第7回蚕糸絹業提携確立技術・経営コンクールの出品を募集

第7回蚕糸絹業提携確立技術・経営コンクールを下記のとおり実施します。

なお、このコンクールは、平成31年度(第58回)農林水産祭参加の一環として実施します。積極的な参加をお願いします。

記

1 開催の目的

蚕糸絹産業や絹文化の維持継承とその活性化を図るため、高度な養蚕技術や経営手法を駆使して純国産絹製品の生産販売活動に携わっている蚕糸絹業提携グループ、養蚕農家又は農家団体を表彰し、その活動と成果を広く紹介して蚕糸絹業の発展に資する。

2 応募方法・応募先

応募は、出品財として蚕糸絹業提携グループ、養蚕農家又は農家団体の何れかを選択し、蚕糸絹業提携確立技術・経営コンクール事務局に直接郵送か、各県蚕糸主務課又は各県蚕糸絹文化活性化推進事業事務局を通じてご応募をお願いします。

3 応募期間 平成31年1月15日～平成31年3月15日まで

4 審査・表彰日 審査会 平成31年4月上旬

表彰式 平成31年5月中旬

表彰場所 東京都千代田区 蚕糸会館

5 表彰内容 農林水産大臣賞1点、農林水産省生産局長賞1点

一般財団法人大日本蚕糸会会頭賞3点以内

6 審査員 一般財団法人大日本蚕糸会事業審査委員会の審査員

7 主催者 一般財団法人大日本蚕糸会

(問い合わせ先)

〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-9-4 蚕糸会館

一般財団法人大日本蚕糸会

蚕糸絹業提携確立技術・経営コンクール事務局

担当：廣瀬隆登、菊池 清、小林栄一

T E L : 03-3214-3500

E-mail : kikuchi@silk.or.jp (菊池 清)

kobaei@silk.or.jp (小林栄一)

蚕糸絹関係博物館一覧

名 称	〒	住 所	電 話
一般財団法人北海道開拓の村	004-0006	北海道札幌市厚別区厚別町小野幌 50-1	011-898-2692
ひころの里「シルク館」	986-0782	宮城県本吉郡南三陸町入谷字桜沢 442	0226-46-4310
原始布・古代織参考館	992-0039	山形県米沢市門東町1丁目1-16	0238-22-8141
米沢織物歴史資料館	992-0039	山形県米沢市門東町1丁目1-87	0238-23-3525
夕鶴の里資料館 語り部の館	992-0474	山形県南陽市漆山 2025-2	0238-47-5800
松ヶ岡開墾記念館	997-0152	山形県鶴岡市羽黒町松ヶ岡 29	0235-62-3985
公益財団法人致道（ちどう）博物館	997-0036	山形県鶴岡市家中新町 10-18	0235-22-1199
酒田市美術館	998-0055	山形県酒田市飯森山三丁目 17-95	0234-31-0095
かわまたおりもの展示館	960-1406	福島県伊達郡川俣町大字鶴沢字東 13-1	024-565-4889
結城市伝統工芸館	307-0001	茨城県結城市大字結城 3018-1	0296-32-7949
紬の里	307-0001	茨城県結城市結城 2515	0296-32-8002
本場結城紬郷土館	307-0000	茨城県結城市浦町 116	0296-32-2121
本場結城紬染織資料館「手緒里」	307-0001	茨城県結城市結城 12-2	0296-33-3111
佐野市郷土博物館	327-0003	栃木県佐野市大橋町 2047	0283-22-5111
おやま本場結城紬クラフト館	323-0023	栃木県小山市中央町 3-7-1 ロブレビル 1F	0285-32-6477
足利織物伝承館	326-0814	栃木県足利市通 3-2589	0284-22-3004
足利まちなか遊学館	326-0814	栃木県足利市通 1-2673-1	0284-41-8201
足利織姫神社	326-0817	栃木県足利市西宮町 3889	0284-22-0313
那須野が原博物館	329-2752	栃木県那須塩原市三島 5-1	0287-36-0949
高崎市歴史民俗資料館	370-0027	群馬県高崎市上滝町 1058	027-352-1261
群馬県立歴史博物館	370-1293	群馬県高崎市綿貫 992-1（群馬の森公園内）	027-346-5522
おかいこステーション	370-3401	群馬県高崎市倉渕町権田 5344-1235	027-340-6060
群馬県立日本絹の里	370-3511	群馬県高崎市金古町 888 番地の 1	027-360-6300
富岡製糸場	370-2316	群馬県富岡市富岡 1-1	0274-64-0005
前橋市蚕糸記念館	371-0036	群馬県前橋市敷島町 262 番地（敷島公園/バラ園内）	027-231-9875
織物参考館“紫（ゆかり）”	376-0034	群馬県桐生市東 4 丁目 2 番 24 号	0277-45-3111
桐生織物記念館（桐生織物協同組合）	376-0044	群馬県桐生市永楽町 6-6	0277-43-2510
コノドント館みどり市大間々博物館	376-0101	群馬県みどり市大間々町大間々 1030	0277-73-4123
たくみの里	379-1418	群馬県利根郡みなかみ町須川 784	0278-64-2211
片倉シルク記念館	360-0815	埼玉県熊谷市本石 2 丁目 135 番地	048-522-4316
ちちぶ銘仙館	368-0032	埼玉県秩父市熊木町 28-1	0494-21-2112
秩父ふるさと館	368-0044	埼玉県秩父市本町 3-1	0494-23-7300
きもの芸術館（一般財団法人国際文化きもの学会）	150-0002	東京都渋谷区渋谷 1-6-8 清水学園ビル 6F～8F	03-3400-0286
文化学園服飾博物館	151-8529	東京都渋谷区代々木 3-22-7	03-3299-2387
蚕糸科学研究所展示室	169-0073	東京都新宿区百人町 3-25-1	03-3368-4891
調布市郷土博物館	182-0026	東京都調布市小島町 3-26-2	0424-81-7656
東京農工大学科学博物館	184-8588	東京都小金井市中町 2-24-16	042-388-7163
絹の道資料館	192-0375	東京都八王子市鎌水 989-2	0426-76-4064
八王子市郷土資料館	192-0902	東京都八王子市上野町 33	042-622-8939

名 称	〒	住 所	電 話
町田市立博物館	194-0032	東京都町田市本町田 3562	042-726-7531
羽村市郷土博物館	205-0012	東京都羽村市羽 741	042-558-2561
シルク博物館	231-0023	横浜市中区山下町 1 番地シルクセンター内	045-641-0841
神奈川県立歴史博物館	231-0006	横浜市中区南仲通 5-60	045-201-0926
相模田名民家資料館	229-1124	相模原市田名 4853 番 2 (大杉公園隣り)	042-761-7118
小千谷織物工房 小千谷織物同業協同組合	947-0028	新潟県小千谷市城内 1-8-25 小千谷市総合産業会館サンプラザ内	0258-83-2329
手織りの館	947-0028	新潟県小千谷市城内 1 - 8 - 25	0258-83-4800
十日町市博物館	948-0072	新潟県十日町市西本町 1	0257-57-5531
塩沢つむぎ記念館 (織の文化館)	949-6408	新潟県南魚沼市塩沢 1227 - 14	0257-82-4888
白山工房 (織りの資料館)	920-2501	石川県白山市白峰村ヌ 17	076-259-2859
はたや記念館ゆめおーれ勝山	911-0802	福井県勝山市昭和町 1 - 7 - 40	0779-87-1200
豊富郷土資料館	400-1513	山梨県中央市大鳥居 1619 - 1	055-269-3399
須坂市立博物館	382-0028	長野県須坂市臥竜 2 丁目 4 番 1 号臥竜公園内	026-245-0407
常田館 (絹の資料館)	386-0018	長野県上田市常田 1 - 10 - 3 笠原工業 (株) 内	0268-22-1230
繊維学部資料館	386-8567	長野県上田市常田 3-15-1 信州大学繊維学部内	0268-21-5454
上田市立博物館	386-0026	長野県上田市二の丸 3 番 3 号 (上田城跡公園内)	0268-22-1274
上田市丸子郷土博物館	386-0413	長野県上田市東内 2564 - 1	0268-42-2158
絹糸紡績資料館	386-0498	長野県上田市上丸子 1078 シナノケンシ (株) 内	0268-41-1800
長野県立歴史館	387-0007	長野県千曲市大字屋代字清水、科野の里歴史公園内	026-274-2000
海野宿歴史民俗資料館	389-0518	長野県東御市本海野 1098	0268-64-1000
日本司法博物館 (松本歴史の里)	390-0852	長野県松本市島立小柴 2196 - 1	0263-47-4515
岡谷蚕糸博物館 (シルクファクトおかや)	394-0021	長野県岡谷市郷田 1 丁目 4 番 8 号	0266-23-3489
駒ヶ根シルクミュージアム	399-4321	長野県駒ヶ根市東伊那 482 番地	0265-82-8381
安曇野市天蚕センター	399-8301	長野県安曇野市穂高有明 3618 - 24	0263-83-3835
美濃加茂市民ミュージアム	505-0004	岐阜県美濃加茂市蜂屋町上蜂屋 3299 - 1	0574-28-1110
石川繊維資料館	400-0886	愛知県豊橋市東小田原町 109 - 1	0532-52-5265
豊田市稲武郷土資料館ちゅーま	441-2524	愛知県豊田市黒田町南水別 713	0565-82-3439
豊橋市民俗資料収蔵室	440-0021	愛知県豊橋市多米町滝の谷 34-1-1	0532-63-2026
三重中央農協郷土資料館	515-2504	三重県津市一志町高野 1204 - 1	059-293-0010
手おりの里、金剛苑	529-1204	滋賀県愛知郡愛荘町蚊野外 514	0749-37-4131
織物文化館	601-1123	京都市左京区静市市原町 265 川島織物セルコン内	075-741-4120
西陣織会館	602-8216	京都市上京区堀川通り今出川南入	075-451-9231
織成館	602-8482	京都市上京区浄福寺通上立売上る大黒町 693 番地	075-431-0020
千總ギャラリー	604-8166	京都市中京区御倉町 80 番地千總本社ビル 2 階	075-211-2531
絹の白生地資料館	604-8176	京都市中京区龍池町 448 - 2 伊と幸ビル	075-254-5884
まゆ村	616-8384	京都市右京区嵯峨天龍寺造路町	075-882-0564
グンゼ博物苑	623-0011	京都府綾部市青野町 グンゼ (株) 周辺敷地内	0773-43-1050
織元田勇	629-3104	京都府京丹後市網野町浅茂川 112 田勇機業 (株) 内	0772-72-0307

名 称	〒	住 所	電 話
上垣守国（うえがきもりくに）養蚕記念館	667-0321	兵庫県養父市大屋町蔵垣 246 - 2	079-669-1580
デザイン・クリエイティブセンター神戸 (KIITO)	651-0082	神戸市中央区小野浜町 1-4	078-325-2201
西予市野村シルク博物館	797-1212	愛媛県西予市野村町野村 8 号 177 番地 1	0894-72-3710
蚕糸資料館	781-1301	高知県高岡郡越知町越知甲 1577 番地	0889-26-1002
藤村製絲記念館	781-6402	高知県安芸郡奈半利町乙 2630	0887-38-4711

蚕糸絹関係機関ホームページ一覧

【行政】

農林水産省
経済産業省

<http://www.maff.go.jp>
<http://www.meti.go.jp>

【蚕糸絹業関係団体】

(一財) 大日本蚕糸会
(一財) 大日本蚕糸会 ジャパンシルクセンター
(一社) 日本絹人繊維物工業会
(一財) 日本真綿協会
丹後織物工業組合
西陣織工業組合
TAFS (東京織物卸商業組合)
KOMS (京都織物卸商業組合)
(公財) 京都和装産業振興財団
(一財) 伝統的工芸品産業振興協会
蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会

<http://www.silk.or.jp>
<http://www.silk-center.or.jp>
<http://www.kinujinsen.com>
<http://www.mawata.or.jp>
<http://www.tanko.or.jp>
<http://www.nishijin.or.jp>
<http://www.tafs.or.jp>
<http://www.fashion-kyoto.or.jp>
<http://www.wasou.or.jp/wasou/index.html>
<http://www.kougeihin.jp>
<http://takaraginu.com>

【大学・試験研究機関】

(国研) 農業・食品産業技術総合研究機構 <http://www.naro.affrc.go.jp>
(国) 北海道大学応用分子生物学分野応用分子昆虫学研究室 <http://www.agr.hokudai.ac.jp/rfoa/abs/abs2-1.html>
(国) 岩手大学農学部生命資源科学コース応用昆虫研究室 <http://news7a1.atm.iwate-u.ac.jp/department2/agri/life.html>
(国) 宇都宮大学農学部昆虫機能利用学研究室
http://shigen.mine.utsunomiya-u.ac.jp/insectbiotechnology/insect_physiology/seiri-research
(国) 東京大学大学院農学生命科学研究科生産・環境生物学専攻昆虫遺伝研究室
<http://papilio.ab.a.u-tokyo.ac.jp/igb/index-J.html>
(国) 東京農工大学農学部生物生産学科蚕学研究室 <http://www.tuat.ac.jp/~kaiko>
(国) 東京農工大学工学部生命工学科 <http://www.tuat.ac.jp/~seimei>
(国) 名古屋大学農学部 <http://www.agr.nagoya-u.ac.jp>
(国) 信州大学繊維学部 <http://www.tex.shinshu-u.ac.jp>
(国) 京都工芸繊維大学工芸科学部応用生物学課程 <http://www.bio.kit.ac.jp>
(国) 鳥取大学農学部生物資源環境学科昆虫機能学教育研究分野 <http://muses.muses.tottori-u.ac.jp>
(国) 山口大学農学部生物資源環境科学科 <http://www.agr.yamaguchi-u.ac.jp/bioenvi/research2.html>
(国) 九州大学大学院生物資源環境科学府蚕学研究室 <http://www.agr.kyushu-u.ac.jp/lab/sangaku>
群馬県蚕糸技術センター <http://www.pref.gunma.jp/07/p14710007.html>
群馬県繊維工業試験場 <http://www.pref.gunma.jp/07/p20210013.html>
京都府織物・機械金属振興センター <http://www.silk.pref.kyoto.jp/index-sub.html>
(地独) 京都市産業技術研究所 <http://www.tc-kyoto.or.jp>
(公財) 衣笠繊維研究所 <http://krf-textile.com>
(一財) 大日本蚕糸会 蚕糸科学研究所 http://www.silk.or.jp/silk_kagaku/index.html
(一財) 大日本蚕糸会 蚕業技術研究所 http://www.silk.or.jp/silk_gijyutu/index.html

【学会】

日本シルク学会
(一社) 日本蚕糸学会
日本野蚕学会

<http://jssst.sakura.ne.jp>
<http://jsss.or.jp>
<http://jswsmo.appspot.com>

【博物館】

(一財) シルクセンター-国際貿易観光会館 シルク博物館
群馬県立日本絹の里
愛媛県西予市野村シルク博物館
東京農工大学科学博物館

<http://www.silkcenter-kbkk.jp/museum>
<http://www.nippon-kinunosato.or.jp>
<http://www.city.seiyo.ehime.jp/soshiki/silkmuseum>
<http://www.tuat.ac.jp/~museum>

【博物館】

駒ヶ根シルクミュージアム
織成館（京都市上京区）
高崎市染料植物園
群馬県立歴史博物館
岡谷蚕糸博物館（シルクファクトおかや）
はたや記念館ゆめおーれ勝山

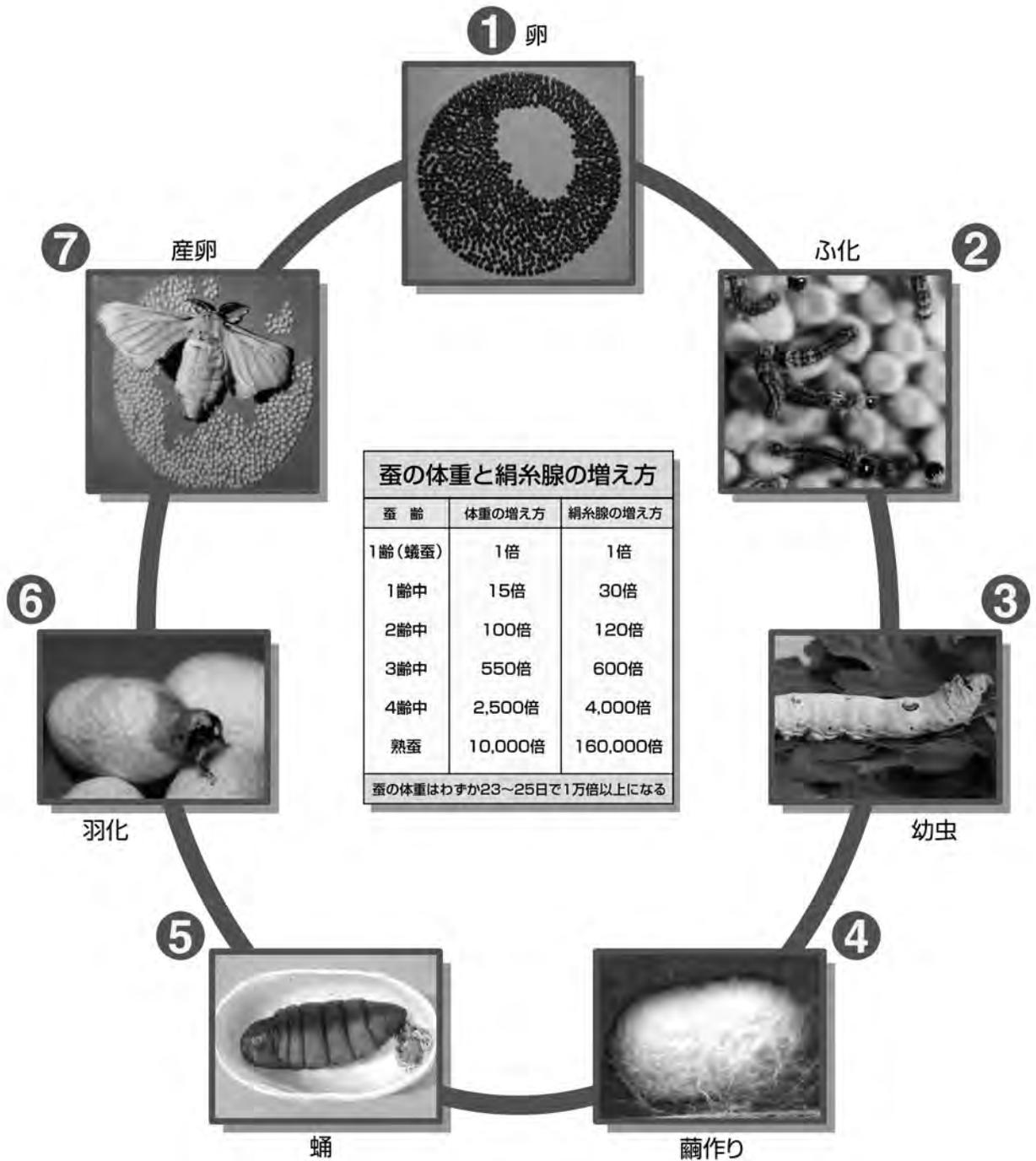
<http://komagane-silk.com/>
<http://orinasukan.skr.jp>
<http://www.city.takasaki.gunma.jp/docs/2014011400979>
<http://grekisi.pref.gunma.jp>
<http://silkfact.jp>
<http://www.city.katsuyama.fukui.jp/hataya>

【富岡製糸場と絹産業遺産群】

富岡製糸場
群馬県 企画部 世界遺産課
ぐんま絹遺産
上毛新聞社関連記事

<http://www.tomioka-silk.jp/hp/index.html>
<http://worldheritage.pref.gunma.jp/ja>
<http://worldheritage.pref.gunma.jp/kinuisan>
http://jomo-news.co.jp/ns/series/silk_index.html

蚕の一生



蚕の体重と絹糸腺の増え方

蚕 齢	体重の増え方	絹糸腺の増え方
1齢(蛭蚕)	1倍	1倍
1齢中	15倍	30倍
2齢中	100倍	120倍
3齢中	550倍	600倍
4齢中	2,500倍	4,000倍
熟蚕	10,000倍	160,000倍

蚕の体重はわずか23~25日で1万倍以上になる

協力:シルク博物館

一般財団法人 大日本蚕糸会

統計資料の年間掲載計画

＜国内＞	1月号	4月号	7月号	10月号
(1) 蚕糸絹業の概要	○	○	○	○
(2) 養蚕農家数	○	○	○	○
(3) 繭生産数量の推移	○	○	○	○
(4) 蚕期別、都府県別養蚕農家戸数		○		
(5) 蚕期別、都府県別繭生産数量		○		
(6) 蚕品種別蚕種製造数量の推移		○		
(7) 生糸需給及び絹糸・絹織物の輸出入状況	○	○	○	○
(8) 生糸の織度別生産数量の推移		○		○
(9) 絹需給の推移(生産量換算試算)	○	○	○	○
(10) 品目別・二次製品輸入数量(生糸量換算試算)		○		
(11) 製糸工場の原料繭需給	○	○	○	○
(12) 製糸工場の操業状況	○	○	○	○
(13) 生糸在庫数量の内訳	○	○	○	○
(14) 蚕糸関係品目別輸入状況		○		
(15) 生糸の原産国別輸入数量		○		○
(16) 絹糸の原産国別輸入数量		○		○
(17) 生糸・絹糸の主要輸入国からの輸入数量と単価		○		○
(18) 絹織物生産数量	○	○	○	○
(19) 丹後・長浜・西陣の絹織物生産数量	○	○	○	○
(20) 全国全世帯被服類品目別消費支出状況	掲載中止			
＜海外＞				
(1) 世界主要国の家蚕繭生産数量	○	○	○	○
(2) 世界主要国の家蚕生糸生産数量		○		
(3) 中国省別家蚕繭生産数量・生糸生産数量		○		
(4) 中国省別家蚕繭生産数量の推移	掲載中止			
(5) 中国繭絲綢交易市場における各種シルク現物価格	○	○	○	○
(6) 中国企業別従業員年間賃金総額及び対前年指数	掲載中止			
(7) 中国企業別従業員年間平均賃金及びその対前年指数				
(8) 中国産業別従業員年平均賃金の推移				
(9) 中国省別従業員年平均賃金(2016年)				

統計資料目次

<国内>

(1) 蚕糸絹業の概要	54
(2) 養蚕農家数の推移	55
(3) 繭生産数量の推移	56
(4) 蚕期別、都府県別養蚕農家戸数	
(5) 蚕期別、都府県別繭生産数量	
(6) 蚕品種別蚕種製造数量の推移	
(7) 生糸需給及び絹糸・絹織物の輸出入状況	57
(8) 生糸の織度別生産数量の推移	
(9) 絹需給の推移（生糸量換算試算）	58
(10) 品目別・二次製品輸入数量（生糸量換算試算）	
(11) 製糸工場の原料繭需給	59
(12) 製糸工場の操業状況	60
(13) 生糸在庫数量の内訳	61
(14) 蚕糸関係品目別輸入状況	
(15) 生糸の原産国別輸入数量	
(16) 絹糸の原産国別輸入数量	
(17) 生糸・絹糸の主要輸入国からの輸入数量と単価	
(18) 絹織物生産数量	62
(19) 丹後・長浜・西陣の絹織物生産数量	63
(20) 全国全世帯被服類品目別消費支出状況	

<海外>

(1) 世界主要国の家蚕繭生産数量	65
(2) 世界主要国の家蚕生糸生産数量	
(3) 中国省別家蚕繭生産数量・生糸生産数量	
(4) 中国省別家蚕繭生産数量の推移	
(5) 中国繭絲綢交易市場における各種シルク現物価格	66
(6) 中国企業別従業員年間賃金総額及び対前年指数	
(7) 中国企業別従業員年間平均賃金及びその対前年指数	
(8) 中国産業別従業員年平均賃金の推移	
(9) 中国省別従業員年平均賃金（2016年）	

一 資料・国内一

(1) 蚕糸絹業の概要

Outline of Sericultural, Silk-Reeling, and Silk Fabric Industry in Japan

項目 item	養蚕業 Sericultural Industry			製糸業 Silk-Reeling Industry			絹業 Silk Fabric Industry	
	養蚕農家 戸数 Number of Silk- Raising Farmer	収繭量 Cocoon Production	1戸当 収繭量 Cocoon Production per Farmer	生糸 生産量 Raw Silk Production	運転 工場数 Number of Mills	稼働率 Operation ratio	絹人織機 設備台数 (保有台 数) Number of Silk Loom	絹織物 生産量 Silk Fabric Production
年次(暦年) Calendar year	戸 Number	トン t	kg	千俵 1,000 Bale of 60kg	工場 Number	%	千台 1,000	千㎡ 1,000 sq. meters
(平成)								
2000 (12)	3,280	1,244	379	9.3	8	67	62.9	32,275
2001 (13)	2,730	1,031	378	7.2	8	63	56.8	29,801
2002 (14)	2,360	880	373	6.5	17	68	51.2	26,826
2003 (15)	2,070	780	377	4.8	14	64	48.7	23,935
2004 (16)	1,850	683	369	4.4	13	62	45.6	21,895
2005 (17)	1,591	626	393	2.5	10	62	43.7	19,816
2006 (18)	1,345	505	375	2.0	9	82	41.6	18,507
2007 (19)	1,169	433	370	1.8	8	83	40.0	15,466
2008 (20)	1,021	382	374	1.6	6	80	38.1	14,043
2009 (21)	915	327	357	1.2	6	60	33.6	9,955
2010 (22)	756	265	351	0.9	7	49	35.9	3,611
2011 (23)	627	220	351	0.7	7	52	34.7	3,152
2012 (24)	571	202	354	0.5	7	35	33.3	2,912
2013 (25)	486	168	346	0.4	9	31	32.0	2,940
2014 (26)	393	149	379	0.4	9	34	-	2,734
2015 (27)	368	135	367	0.4	8	30	-	2,316
2016 (28)	349	130	372	0.3	8	26	-	2,243
2017 (29)	336	125	372	0.3	8	28	-	2,194
前年比(%) 2017/2016	96.3	96.2	99.9	100.0	100.0	107.7	-	97.8

- 資料 ・平成20年以前の養蚕業及び製糸業は、農林水産省調査によるものである。
 ・平成21年以降の養蚕業は、全国農業協同組合連合会及び(一財)大日本蚕糸会調査である。
 ・平成21年以降の製糸業は、中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会調査である。
 ・平成20年以前の絹業は経済産業省調査であり、平成21年以降絹業は(一社)日本絹人織織物工業会調査である。
 平成18年以降の絹織物生産量は、絹紡織物を含む。
 ・平成23年以降の養蚕業は(一財)大日本蚕糸会調査である。

(注) 製糸業の運転工場数及び稼働率は器械製糸工場の操業状況であるが、平成14年以降はすべての製糸工場のものである。

- Source: ・Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (MAFF) (Sericultural and Silk-Reeling, before 2008)
 ・National Federation of Agricultural Co-operative Associations and the Dainippon Silk Foundation (Sericultural Industry, after 2009)
 ・Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association (Silk-Reeling, after 2009)
 ・The Ministry of Economy Trade and Industry (Silk Fabric, before 2008)
 ・Japan Silk & Rayon Weaver's Association (Silk Fabric, after 2009)

Note: The number of operating mills and operation ratio are of machine reeling mills. (After 2002, all reeling mills)

(2) 養蚕農家数の推移

Farm households raising silk-worm

(単位：戸)
(Unit: number)

年次 Year	項目 Item	年間 Annual total	春蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 Early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm
2000		3,280	2,970	2,170	2,700
2001		2,730	2,410	1,870	2,270
2002		2,360	1,992	1,720	1,918
2003		2,070	1,875	1,503	1,751
2004		1,850	1,621	1,371	1,551
2005		1,591	1,420	1,061	1,345
2006		1,345	1,215	852	1,102
2007		1,169	1,052	726	988
2008		1,021	929	613	857
2009		915	814	647	755
2010		756	650	494	637
2011		627	562	358	531
2012		571	514	319	462
2013		486	422	260	399
2014		393	359	230	328
2015		368	323	221	313
2016		349	310	209	310
2017		336	307	201	280
前年比(%) 2017/2016		96.3	99.0	96.2	90.3

資料：農林水産省統計情報部（～2001年） 全国農業協同組合連合会（2002年～2004年）

農林水産省生産局（2005～2008年）（一財）大日本蚕糸会（2009年～）

Source：The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2001).

National Federation of Agricultural Co-operative Associations (2002～2004).

The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2005～2008年).

The Dainippon Silk Foundation (2009年～)

(3) 繭生産数量の推移
Cocoon Production

年次 Year	項目 Item	年計 Annual total				1戸当り取繭量 Cocoon production per farm household raising silk-worm			
		年間	春蚕	初秋蚕	晩秋蚕	年間	春蚕	初秋蚕	晩秋蚕
		Annual total	Spring silk-worm	early autumn silk-worm	Late autumn silk-worm	Annual total	Spring silk-worm	early autumn silk-worm	Late autumn silk-worm
		t	t	t	t	kg	kg	kg	kg
2000		1,244	500	320	424	379	169	148	157
2001		1,031	391	275	365	378	162	147	161
2002		880	330	231	320	373	166	134	167
2003		775	313	210	253	374	167	140	144
2004		675	256	176	243	369	158	128	157
2005		626	243	165	218	396	171	156	162
2006		505	209	122	173	375	172	143	157
2007		433	175	110	148	371	166	152	150
2008		382	147	96	139	374	158	157	162
2009		327	124	85	118	357	152	131	156
2010		265	107	60	98	351	165	121	154
2011		220	95	49	76	351	169	136	143
2012		202	79	50	73	354	155	156	159
2013		168	61	41	67	346	145	158	168
2014		149	55	36	58	379	153	157	176
2015		135	49	32	54	368	151	147	174
2016		130	47	32	50	372	153	155	162
2017		125	47	29	49	370	153	144	175
前年比(%) 2017/2016		96.3	99.3	89.5	97.8	99.4	100.2	93.0	108.3
2017年 構成比(%)		100.0	37.6	23.2	39.2				

資料：農林水産省統計情報部（～2001年） 全国農業協同組合連合会（2002年～2004年）

農林水産省生産局（2005～2008年） （一財）大日本蚕糸会（2009年～）

Source：The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries（～2001）.

National Federation of Agricultural Co-operative Associations（2002～2004）.

The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries（2005～2008年）.

The Dainippon Silk Foundation（2009年～）

(7) 生糸需給及び絹糸・絹織物の輸出入状況

Raw Silk Supply / Demand Balance and Import/Export of Silk Yarn and Silk Fabric

項目 Item 年月 Year & Month	生 糸 Raw Silk					絹 糸 Silk Yarn		絹 織 物 Silk Fabrics	
	生産数量 Production (A)	輸入数量 Imports (B)	輸出数量 Exports (C)	国内引渡数量 Domestic Deliveries (D)	期末在庫数量 Ending Stocks (E)	輸入数量 Imports (F)	輸出数量 Exports (G)	輸入数量 Imports (H)	輸出数量 Exports (I)
	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	1000SM	1000SM
暦年 Calendar Year									
2010	882	12,207	595	13,220	3,329	16,306	324	8,930	6,302
2011	731	9,323	578	10,349	2,456	17,526	427	8,422	6,229
2012	506	10,032	419	10,274	2,180	16,179	320	7,218	5,545
2013	409	9,332	292	9,919	1,712	15,844	426	6,662	5,431
2014	446	8,235	14	8,726	1,653	14,820	330	6,098	5,125
2015	378	6,479	0	7,194	1,410	14,051	302	5,468	5,085
2016	317	6,548	0	6,869	1,406	12,094	177	5,207	4,940
2017	339	7,560	1	7,554	1,750	14,560	245	4,897	4,785
2016 —									
1	23	423	0	513	1,343	1,101	35	468	354
2	33	595	0	607	1,364	797	10	460	348
3	38	636	0	401	1,637	911	15	384	523
4	26	0	0	414	1,249	1,047	19	445	478
5	24	726	0	529	1,470	900	20	493	364
6	17	555	0	648	1,394	1,295	12	457	434
7	26	642	0	630	1,432	1,072	8	442	443
8	26	589	0	599	1,448	967	9	383	332
9	30	520	0	620	1,378	946	5	374	426
10	20	602	0	572	1,428	862	17	414	415
11	28	664	0	700	1,420	1,161	22	493	407
12	26	596	0	636	1,406	1,035	5	394	416
2017 —									
1	23	552	0	534	1,447	1,314	7	522	249
2	23	509	0	479	1,500	535	35	203	454
3	23	805	1	693	1,634	1,376	21	456	469
4	26	0	0	122	1,538	1,255	23	371	437
5	36	997	0	1,021	1,550	1,389	14	466	411
6	26	735	0	773	1,538	1,285	17	499	410
7	24	437	0	515	1,484	960	18	388	441
8	25	839	0	799	1,549	1,443	9	391	355
9	35	664	0	543	1,705	1,259	12	395	381
10	31	700	0	725	1,711	815	36	321	389
11	34	760	0	783	1,722	1,542	20	522	399
12	33	561	0	569	1,747	1,388	34	360	390
2018 —									
1	25	778	0	728	1,822	1,200	552	453	312
2	24	401	0	510	1,737	798	2,195	342	325
3	28	496	0	600	1,661	1,080	2,878	241	510
4	24	0	0	145	1,540	929	15	356	436
5	34	926	0	791	1,709	1,127	9	368	394
6	29	348	0	439	1,647	941	11	357	455
7	24	348	0	387	1,632	788	13	339	426
8	23	423	0	518	1,560	706	16	355	352
9	32	184	1	300	1,475	817	16	296	375
10		431	0			936	16	408	443

資料：(A) (C) (D) (E) 農林水産省生産局（～2010.3） 中央蚕糸協会及び日本生糸問屋協会（2010.4～2012.11）

中央蚕糸協会（2012.12～2018.10）（一財）大日本蚕糸会（2018.11～）(B) (F) (G) (H) (I) 財務省関税局

備考：1. 国内引渡数量(D) = {前月在庫数量+(A)+(B)} - {(C)+(E)}。

2. kgを60kg俵に換算しているため、各月の計と合計とが一致しない場合がある。

3. (D)と(E)は2012年11月までと同年12月以降調査方法が変更したため連続性はない。

Source：(A) (C) (D) (E) The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries

（～2010.3）、Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association (2010.4～2012.11)、

Central Raw Silk Association (2012.12～2018.10). The Dainippon Silk Foundation (2018.11～)

(B) (F) (G) (H) (I) The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks：1. Domestic deliveries(D)={Stock at end of the previous month+(A)+(B)}-{(C)+(E)}.

2. Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

(9) 絹需給の推移 (生糸量換算試算)

Silk Supply and Demand Balance (Raw Silk Value Estimation)

(単位：千俵)
(Unit: 1,000Bales of 60kg)

項目 Item 曆年 Calendar Year	供給計 Supply Total ①								需要計 Demand Total ②=①-④						期末 在庫 Ending Stocks ④	
	期初 在庫 Opening Stocks	生産 Produc- tion	輸入 Import					輸出 Export				内需 Domestic Demand ②-③				
			計 Total	生 糸 Raw Silk	絹 糸 Silk Yarn	織 物 Fabrics	二 次 The Second	計 ③ Total	生 糸 Raw Silk	絹 糸 Silk Yarn	織 物 Fabrics		二 次 The Second			
2000	376	119	9	248	39	32	28	149	263	16	0	0	14	2	247	113
2001	350	113	7	230	30	23	25	152	237	17	0	0	15	2	220	113
2002	366	113	7	246	32	28	24	162	261	18	0	0	16	2	243	105
2003	361	105	5	251	31	33	25	162	261	20	2	0	17	1	241	100
2004	353	100	4	249	26	30	25	168	268	30	11	0	18	1	238	85
2005	354	85	3	266	22	33	30	181	270	27	4	1	21	1	243	84
2006	334	84	2	248	20	32	24	172	257	22	0	1	20	1	235	77
2007	293	77	2	214	13	19	21	161	222	21	0	1	18	2	201	71
2008	276	71	2	203	15	23	20	145	213	16	0	0	15	1	197	63
2009	237	63	1	173	12	16	15	130	190	16	0	0	15	1	174	47
2010	225	47	1	177	12	16	16	133	182	16	0	0	15	1	166	43
2011	227	43	1	183	9	18	14	142	180	16	0	0	15	1	164	47
2012	230	47	1	182	10	16	14	142	184	15	0	0	14	1	169	46
2013	248	46	0	202	9	16	13	164	203	14	0	0	13	1	189	45
2014	225	45	0	180	8	15	12	145	180	14	0	0	13	1	166	45
2015	221	45	0	176	6	14	11	145	176	17	0	0	12	5	159	45
2016	239	45	0	194	7	12	14	161	194	15	0	0	9	6	179	45
2017	239	45	0	194	8	15	9	162	194	22	0	1	11	10	172	45
前年比(%) 2017/2016	100	100	-	100	114	125	64	101	100	147	-	-	122	167	96	100

資料：蚕糸業需給・価格動向隔月報・繊維統計月報・日本貿易月報

注) 2013年から期末在庫を45千俵とする。

Source: "Silk balance and price situation monthly", "Trade Statistics"

(11) 製糸工場の原料繭需給

Balance of Cocoons as Raw Materials by Reeling Mills

(単位：生繭. t)

(Unit: Ton by fresh weight)

年 月 Year & Month	項 目 Item	総 計 Grand Total		
		受入数量 Receipts	消費数量 Put in Process	期末在庫数量 Ending Stocks
暦 年 Calendar Year				
	2010	240	299	263
	2011	189	162	237
	2012	185	209	183
	2013	142	137	188
	2014	128	158	158
	2015	116	159	115
	2016	115	110	120
	2017	103	120	103
2016 —	1	0	8	107
	2	0	11	96
	3	0	13	83
	4	0	9	74
	5	0	8	66
	6	23	6	83
	7	24	10	97
	8	10	8	99
	9	7	10	96
	10	39	8	127
	11	12	10	129
	12	0	9	120
2017 —	1	1	8	113
	2	0	9	104
	3	0	8	96
	4	1	9	88
	5	0	12	76
	6	22	9	89
	7	25	9	105
	8	12	9	108
	9	1	12	97
	10	33	11	119
	11	8	12	115
	12	0	12	103
2018 —	1	0	9	94
	2	2	8	88
	3	0	11	77
	4	0	8	69
	5	0	12	57
	6	18	10	65
	7	20	8	77
	8	9	8	78
	9	0	11	66

資料：農林水産省生産局（～2010.3）中央蚕糸協会及び（社）日本生糸問屋協会（2010.4～2012.11）

中央蚕糸協会（2012.12～2018.10）（一財）大日本蚕糸会（2018.11～）

備考：1. 本表は上繭及び玉屑繭の合計である。

2. 受入数量=本月末在庫数量+消費数量-前月末在庫数量。

3. 2015年9月の消費数量は焼失分29tを含む。

Source：The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries（～2010.3）.

Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association（2010.4～2012.11）.

Central Raw Silk Association（2012.12～2018.10）. The Dainippon Silk Foundation（2018.11～）

Remarks：1. This table includes reelable, doupion and waste cocoons.

2. Receipts=(Ending stocks of the current month)+(put in process)-(Ending stocks of the preceding month).

(12) 製糸工場の操業状況

Activities of Reeling Mills

年 月 Year & Month	項 目 Item	運転工場数 Operating Reeling Mills	設 備 数(台) Reeling Machines		運 転 率 (%) Operating Ratio	操業日数 Days Operated	従業者数 Number of Workers
			運転可能 Operable	運 転 Operating			
曆 年 Calendar Year							
	2010	7	118	58	49	247	73
	2011	7	110	57	52	252	65
	2012	7	110	39	35	243	56
	2013	9	110	38	31	249	58
	2014	9	110	38	34	261	58
	2015	8	110	33	30	263	53
	2016	8	110	29	26	267	57
	2017	8	110	31	28	266	54
2016 -	1	7	110	25	23	19	53
	2	6	110	34	31	22	57
	3	6	110	36	33	23	57
	4	7	110	31	28	23	58
	5	6	110	21	19	21	50
	6	7	110	20	19	23	49
	7	8	110	31	28	23	63
	8	7	110	31	28	21	59
	9	7	110	30	27	23	58
	10	8	110	30	27	24	61
	11	8	110	29	26	22	61
	12	8	110	30	27	23	55
2017 -	1	7	110	33	30	19	51
	2	7	110	31	28	22	51
	3	6	110	19	17	23	42
	4	6	110	21	19	23	48
	5	7	110	33	30	23	58
	6	8	110	32	29	23	62
	7	7	110	21	19	24	52
	8	6	110	35	32	22	48
	9	7	110	38	35	23	59
	10	8	110	34	31	22	62
	11	7	110	36	33	22	61
	12	7	110	41	37	20	59
2018 -	1	7	74	37	50	16	58
	2	6	74	28	38	19	48
	3	6	74	23	31	24	48
	4	5	74	25	34	22	39
	5	6	74	43	58	21	49
	6	8	74	34	46	24	61
	7	8	74	31	42	22	59
	8	7	74	40	54	17	53
	9	7	74	37	50	22	56

資料：農林水産省生産局(～2010.3) 中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会(2010.4～2012.11)

中央蚕糸協会(2012.12～2018.10) (一財)大日本蚕糸会(2018.11～)

備考：1. 設備数中の運転可能及び運転台数は毎月の算術平均である。

2. 運転率は運転可能台数に対する運転台数の比率である。

3. 従業者数は期末現在の在籍従業員数である。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010.3).

Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association(2010.4～).

Central Raw Silk Association(2012.12～2018.10). The Dainippon Silk Foundation (2018.11～)

Remarks : 1.The number of operable and operating reeling machines is arithmetic means of monthly figures.

2. Operating ratio means ratio of operating machines in operable machines.

3. Number of workers are those on payroll as of end of period.

(13) 生糸在庫数量の内訳
Breakdown of Raw Silk Stocks

(単位：60kg俵)
(Unit: Bales of 60kg)

項目 Item	一 般 在 庫 Stock in markets			
	計 Total	製糸工場 Filatures Mills	生糸市場外 売買業者 Domestic Dealers	生糸輸出 入業者 Ex and Importers
暦 年 Calendar Year				
2010	3,329	319	2,354	656
2011	2,456	288	1,651	517
2012	2,180	124	2,056	
2013	1,712	110	1,602	
2014	1,653	78	1,575	
2015	1,410	94	1,316	
2016	1,406	130	1,276	
2017	1,747	156	1,591	
2016 —				
1	1,343	93	1,251	
2	1,364	97	1,267	
3	1,637	119	1,518	
4	1,249	116	1,133	
5	1,470	114	1,356	
6	1,394	111	1,283	
7	1,432	107	1,325	
8	1,448	111	1,337	
9	1,378	118	1,260	
10	1,428	110	1,318	
11	1,420	123	1,297	
12	1,406	130	1,276	
2017 —				
1	1,447	129	1,318	
2	1,500	127	1,373	
3	1,634	124	1,510	
4	1,538	112	1,426	
5	1,550	123	1,427	
6	1,538	116	1,422	
7	1,484	107	1,377	
8	1,549	107	1,442	
9	1,705	119	1,586	
10	1,711	123	1,588	
11	1,722	138	1,584	
12	1,747	156	1,591	
2018 —				
1	1,822	156	1,666	
2	1,737	158	1,579	
3	1,661	166	1,495	
4	1,540	161	1,379	
5	1,709	174	1,535	
6	1,647	184	1,463	
7	1,632	182	1,450	
8	1,560	188	1,372	
9	1,475	199	1,276	

資料：農林水産省生産局(～2010.3) 中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会(2010.4～2012.11)

中央蚕糸協会(2012.12～2018.10) (一財)大日本蚕糸会(2018.11～)

注：農畜産業振興機構の蚕糸業務は2008年に終了。

Source: The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010.3).

Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association(2010.4～2012.11).

Central Raw Silk Association(2012.12～2018.10).The Dainippon Silk Foundation(2018.11～)

Note: Agriculture&Livestock Industries Corporation ended the activities related with silk industry in 2008.

(18) 絹織物生産数量

Production of Silk Fabrics

(単位：1,000㎡)
(Unit: 1,000sq. meters)

品 種 Type of Fabrics	総 数 Grand Total	絹・絹紡織物 Silk and Spun Silk Fabrics							
		広巾織物 Double Width				小巾織物 Single Width			その他の 後練(後染) Other Piece Dyed Silk Fabrics
		計 Total	羽二重類 Habutae	クレープ類 Crepe	先練 (先染) Dyed Yarn	計 Total	ちりめん類 Silk crape	先練 (先染) Dyed Yarn	
年 月 Year & Month									
暦 年 Calendar Year									
2010	3,611	1,379	871	66	442	1,538	630	908	694
2011	3,152	1,438	786	62	591	1,003	562	441	711
2012	2,912	1,357	738	54	565	879	429	449	677
2013	2,940	1,428	813	46	569	809	397	412	703
2014	2,734	1,441	803	40	599	665	298	367	628
2015	2,316	1,228	664	35	529	630	283	347	458
2016	2,243	1,191	620	38	533	603	266	337	449
2017	2,195	1,185	639	50	497	587	272	315	422
2016 —									
1	172	94	54	3	37	44	18	26	34
2	173	85	53	3	30	51	24	28	37
3	190	99	56	3	39	52	23	29	39
4	214	117	53	3	61	58	24	34	39
5	204	117	52	3	61	51	20	31	36
6	213	114	53	3	58	54	25	29	45
7	181	89	50	4	35	50	23	28	41
8	160	81	48	3	30	45	21	24	35
9	171	87	49	3	35	49	22	27	35
10	187	98	50	3	45	52	23	29	37
11	190	104	52	3	49	50	23	27	36
12	188	106	50	3	53	47	21	25	35
2017 —									
1	161	86	49	4	33	43	19	24	32
2	171	85	52	4	29	49	24	25	37
3	187	96	56	4	36	52	23	29	39
4	187	99	53	4	42	51	24	27	37
5	182	100	51	4	45	50	22	27	33
6	205	113	53	4	55	54	25	29	38
7	182	102	56	5	41	48	22	25	32
8	162	88	51	4	33	43	20	24	31
9	168	87	53	5	29	48	22	26	33
10	194	107	54	4	49	50	24	26	36
11	199	111	55	4	52	51	23	28	37
12	199	113	55	5	53	49	23	26	37
2018 —									
1	169	99	53	4	43	41	20	22	28
2	175	100	52	3	44	46	22	24	30
3	180	93	55	3	36	50	25	25	36
4	193	107	54	4	49	51	25	26	35
5	188	101	51	4	46	48	23	25	39
6	195	103	50	4	49	54	24	30	38
7	169	88	49	4	35	47	22	24	35
8	157	85	48	4	33	43	20	23	29
9	156	84	52	4	27	45	22	24	27

資料：(一社)日本絹人織織物工業会

備考：絹紡と交織を含む。単位以下四捨五入。

Source: Japan Silk & Rayon Weaver's Association.

Remarks: Spun and mixed fabrics included. Fractions of 0.5 and over counted as a whole number and the rest disregarded.

(19)丹後・長浜・西陣の絹織物生産数量

Production of Silk Fabrics in Tango , Nagahama and Nishijin

項目 Item	絹織物生産数量 Silk Fabrics Production		丹後 Tango (白生地) (White Fabrics)		長浜 Nagahama (白生地) (White Fabrics)		西陣 Nishijin (帯) (Sash)	
	数量 Quantity (千㎡) (1,000㎡)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	推定出荷数量 Estimated Shipments (本)	前年(月)比 Ratio to previous year
	年 月 Year & Month							
暦年 Calendar Year								
2010	3,611	36.3	515,721	102.5	84,023	110.0	859,244	115.1
2011	3,152	87.3	475,989	92.3	70,803	84.3	692,943	80.6
2012	2,912	92.4	451,503	94.9	62,910	88.9	645,679	92.9
2013	2,940	101.0	433,451	96.0	55,792	88.7	630,586	97.7
2014	2,734	93.0	400,192	92.3	53,174	95.3	600,917	95.3
2015	2,316	84.7	351,309	87.8	41,893	78.8	526,417	87.6
2016	2,243	96.8	310,271	88.3	38,063	90.9	488,144	92.7
2017	2,195	97.9	294,451	94.9	36,227	95.2	477,594	97.8
2016 -								
1	172	90.1	22,012	92.6	2,707	74.7	39,031	82.0
2	172	94.5	28,277	81.3	3,482	89.4	44,351	102.0
3	190	99.0	25,517	81.9	3,284	73.4	49,298	99.8
4	214	102.9	29,177	93.2	3,167	76.9	47,090	92.7
5	204	112.1	24,051	80.7	3,228	104.0	43,230	99.7
6	213	98.2	26,552	85.0	3,393	84.6	43,263	103.3
7	181	87.9	26,799	94.7	3,169	89.4	36,125	78.7
8	161	100.0	21,611	79.5	3,302	105.8	32,724	93.8
9	171	93.4	26,624	93.3	3,175	97.1	36,533	83.1
10	187	94.4	26,625	92.6	3,356	119.5	38,158	86.1
11	190	98.4	24,839	82.8	3,244	103.4	39,561	104.3
12	188	94.0	28,187	106.7	2,556	91.7	38,780	88.3
2017 -								
1	161	93.6	19,191	87.2	2,721	100.5	40,302	103.3
2	171	99.4	25,321	89.5	2,680	77.0	37,708	85.0
3	187	98.4	23,533	92.2	3,134	95.4	42,381	86.0
4	187	87.4	28,368	97.2	3,153	99.6	42,281	89.8
5	182	89.2	22,784	94.7	3,158	97.8	43,917	101.6
6	205	96.2	28,370	106.8	3,096	91.2	43,127	99.7
7	182	100.6	26,213	97.8	3,217	101.5	35,048	97.0
8	162	100.6	19,448	90.0	2,652	80.3	30,977	94.7
9	168	98.2	26,458	99.4	3,039	95.7	39,274	107.5
10	194	103.7	25,167	94.5	3,164	94.3	38,479	100.8
11	199	104.7	23,926	96.3	3,049	94.0	41,467	104.8
12	199	105.9	25,672	91.1	3,164	123.8	42,670	110.0
2018 -								
1	169	105.0	17,326	90.3	3,005	110.4	35,097	87.1
2	175	102.3	25,063	99.0	2,912	108.7	36,007	95.5
3	180	96.3	23,373	99.3	3,289	104.9	40,384	95.3
4	193	103.2	25,842	91.1	3,243	102.9	41,773	98.8
5	188	103.3	20,935	91.9	3,345	105.9	37,871	86.2
6	195	95.1	27,319	96.3	2,820	91.1	35,102	81.4
7	169	92.9	25,225	96.2	3,376	104.9	32,378	92.4
8	157	96.9	19,518	100.4	2,621	98.8	29,797	96.2
9	156	92.9	25,448	96.2	2,708	89.1	29,607	75.4
10			22,919	91.1	3,137	99.1		
11			25,178	105.2	3,047	99.9		

資料：絹織物生産数量は(一社)日本絹織物工業会 主要3産地の生産量、出荷数量は各産地組合の発表による。

Source : Japan Silk & Rayon Weaver's Association

－資料・海外－

(1)世界主要国の家蚕繭生産数量

Domesticated Silkworm Cocoon Production in Major Countries

区 分		2010年	2011年	2012年
		トン	トン	トン
日本	Japan	265	220	202
中国	China	621,000	661,000	655,000
インド	India	131,924	139,871	144,434
ウズベキスタン	Uzbekistan	23,942	24,667	25,012
イラン	Iran	9,780	10,208	10,637
タイ	Thailand	4,650	4,580	4,580
ブラジル	Brazil	4,439	3,037	2,620
ベトナム	Vietnam	2,570	2,500	2,500
北朝鮮	North Korea	1,016	900	900
トルコ	Turkey	126	151	134
ブルガリア	Bulgaria	75	48	73
インドネシア	Indonesia	161	143	143
シリア	Syria	3.0	5	6.0
主要国の計	Total	799,951	847,330	846,241

区 分		2013年	2014年	2015年
		トン	トン	トン
日本	Japan	168	149	135
中国	China	643,000	641,000	628,000
インド	India	142,487	164,538	157,524
ウズベキスタン	Uzbekistan	26,455	25,000	27,237
イラン	Iran	11,065	11,493	12,538
タイ	Thailand	4,755	4,839	4,881
ブラジル	Brazil	2,608	2,563	2,544
ベトナム	Vietnam	2,500	2,495	2,515
北朝鮮	North Korea	900	857	937
トルコ	Turkey	121	80	75
ブルガリア	Bulgaria	73	65	65
インドネシア	Indonesia	114	71	57
シリア	Syria	5.0	5.0	3.0
主要国の計	Total	834,251	853,155	836,511

注1 日本は(一財)大日本蚕糸会、中国は中国絲綢(シルク)協会、インドはインド繊維省中央蚕糸局(CSB)、ブラジルはブラジル製糸協会 (ABRASSEDA)の統計値をそれぞれ使用、それ以外の国は国際養蚕委員会 (ISC)及びFAOの統計値を使用した。

注2 生糸生産量からの推計を含む。

Note:1 Figures of Japan are based on the data of the Dainippon Silk Foundation.

Figures of China are based on the data of the China Silk Association.

Figures of India are based on the data of the Central Silk Board (CSB), Ministry of Textiles in India.

Figures of Brazil are based on the data of the Brazil Filature Association (ABRASSEDA).

Others than these countries, based on the data of International Sericulture Commission (ISC).

2 As the figures of Vietnam (since 2004) is not reported, that is taken as the same amount as previous year because that constitute high proportion of total.

(5) 中国繭絲綢交易市場における各種シルク現物価格
Spot Price of Various Silk Goods

2018年8月 平均 (month average)

区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/kg) (price range)	価格幅(円/kg) (price range)
1	乾繭(dried cocoon)	3A-4A	111.60 ~ 126.60	1,786 ~ 2,026
2	乾繭(dried cocoon)	5A-6A	131.60 ~ 149.60	2,106 ~ 2,394
3	玉繭(double cocoon)		106.60 ~ 124.36	1,706 ~ 1,990
4	キビソ(frison)	(自動機)automatic reel	110.60 ~ 113.40	1,770 ~ 1,814
5	ビス(bisu)		107.60 ~ 122.00	1,722 ~ 1,952
6	生糸(raw silk)	21d、工場検査	405.80 ~ 423.20	6,493 ~ 6,771
7	生糸(raw silk)	21d、検驗局検査	411.80 ~ 427.80	6,589 ~ 6,845
8	生糸(raw silk)	42d、工場検査	427.40 ~ 452.40	6,838 ~ 7,238
9	玉糸(doupion silk)	110d	417.00 ~ 433.00	6,672 ~ 6,928
10	土糸(native silk)	110d	420.00 ~ 431.00	6,720 ~ 6,896
区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/メートル) (price range)	価格幅(円/メートル) (price range)
11	羽二重(habutae)	45吋(inch)10匁(mom)	40.20 ~ 42.20	643 ~ 675
12	羽二重(habutae)	45吋(inch)8匁(mom)	33.20 ~ 41.20	531 ~ 659
13	サテン(satin)	45吋(inch)16匁(mom)	61.20 ~ 68.20	979 ~ 1091
14	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)13.5匁(mom)	56.20 ~ 59.20	899 ~ 947
15	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)12匁(mom)	45.20 ~ 50.20	723 ~ 803

注:1元=16円

2018年9月 平均 (month average)

区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/kg) (price range)	価格幅(円/kg) (price range)
1	乾繭(dried cocoon)	3A-4A	105.00 ~ 120.00	1,680 ~ 1,920
2	乾繭(dried cocoon)	5A-6A	128.50 ~ 143.50	2,056 ~ 2,296
3	玉繭(double cocoon)		100.00 ~ 120.00	1,600 ~ 1,920
4	キビソ(frison)	(自動機)automatic reel	109.00 ~ 110.00	1,744 ~ 1,760
5	ビス(bisu)		106.00 ~ 118.00	1,696 ~ 1,888
6	生糸(raw silk)	21d、工場検査	405.00 ~ 425.00	6,480 ~ 6,800
7	生糸(raw silk)	21d、検驗局検査	410.00 ~ 431.50	6,560 ~ 6,904
8	生糸(raw silk)	42d、工場検査	420.00 ~ 445.00	6,720 ~ 7,120
9	玉糸(doupion silk)	110d	413.00 ~ 432.00	6,608 ~ 6,912
10	土糸(native silk)	110d	416.00 ~ 430.00	6,656 ~ 6,880
区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/メートル) (price range)	価格幅(円/メートル) (price range)
11	羽二重(habutae)	45吋(inch)10匁(mom)	39.00 ~ 41.00	624 ~ 656
12	羽二重(habutae)	45吋(inch)8匁(mom)	32.00 ~ 40.00	512 ~ 640
13	サテン(satin)	45吋(inch)16匁(mom)	60.00 ~ 67.00	960 ~ 1,072
14	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)13.5匁(mom)	55.00 ~ 58.00	880 ~ 928
15	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)12匁(mom)	44.00 ~ 49.00	704 ~ 784

注:1元=16円

資料:中国繭絲綢交易市場(浙江省、嘉興)発表

Source:China Silk Exchange(Zhejiang Sheng Jia Xing)

2018年10月 平均 (month average)

区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/kg) (price range)	価格幅(円/kg) (price range)
1	乾繭(dried cocoon)	3A-4A	102.80 ~ 118.20	1,645 ~ 1,891
2	乾繭(dried cocoon)	5A-6A	123.40 ~ 140.00	1,974 ~ 2,240
3	玉繭(double cocoon)		98.00 ~ 118.00	1,568 ~ 1,888
4	キビソ(frison)	(自動機)automatic reel	107.20 ~ 108.20	1,715 ~ 1,731
5	ビス(bisu)		102.20 ~ 114.20	1,635 ~ 1,827
6	生糸(raw silk)	21d、工場検査	387.00 ~ 400.00	6,192 ~ 6,400
7	生糸(raw silk)	21d、検驗局検査	392.00 ~ 405.00	6,272 ~ 6,480
8	生糸(raw silk)	42d、工場検査	397.00 ~ 419.00	6,352 ~ 6,704
9	玉糸 (doupion silk)	110d	397.00 ~ 416.00	6,352 ~ 6,656
10	土糸(native silk)	110d	400.00 ~ 414.00	6,400 ~ 6,624
区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/メートル) (price range)	価格幅(円/メートル) (price range)
11	羽二重(habutae)	45吋(inch)10匁(mom)	37.30 ~ 39.30	597 ~ 629
12	羽二重(habutae)	45吋(inch)8匁(mom)	30.30 ~ 38.30	485 ~ 613
13	サテン(satin)	45吋(inch)16匁(mom)	58.30 ~ 65.30	933 ~ 1045
14	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)13.5匁(mom)	53.30 ~ 56.30	853 ~ 901
15	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)12匁(mom)	42.30 ~ 47.30	677 ~ 757

注:1元=16円

2018年11月 平均 (month average)

区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/kg) (price range)	価格幅(円/kg) (price range)
1	乾繭(dried cocoon)	3A-4A	95.75 ~ 111.50	1,532 ~ 1,784
2	乾繭(dried cocoon)	5A-6A	115.75 ~ 136.50	1,852 ~ 2,184
3	玉繭(double cocoon)		90.75 ~ 110.00	1,452 ~ 1,760
4	キビソ(frison)	(自動機)automatic reel	102.00 ~ 103.00	1,632 ~ 1,648
5	ビス(bisu)		97.00 ~ 109.00	1,552 ~ 1,744
6	生糸(raw silk)	21d、工場検査	351.50 ~ 362.25	5,624 ~ 5,796
7	生糸(raw silk)	21d、検驗局検査	356.50 ~ 377.25	5,704 ~ 6,036
8	生糸(raw silk)	42d、工場検査	356.50 ~ 376.50	5,704 ~ 6,024
9	玉糸 (doupion silk)	110d	377.50 ~ 396.50	6,040 ~ 6,344
10	土糸(native silk)	110d	380.50 ~ 402.50	6,088 ~ 6,440
区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/メートル) (price range)	価格幅(円/メートル) (price range)
11	羽二重(habutae)	45吋(inch)10匁(mom)	36.50 ~ 38.50	584 ~ 616
12	羽二重(habutae)	45吋(inch)8匁(mom)	29.50 ~ 37.50	472 ~ 600
13	サテン(satin)	45吋(inch)16匁(mom)	57.50 ~ 64.50	920 ~ 1,032
14	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)13.5匁(mom)	52.50 ~ 55.50	840 ~ 888
15	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)12匁(mom)	41.50 ~ 46.50	664 ~ 744

注:1元=16円

※「シルクレポート」の記事と統計データは、下記のホームページでもご覧になれます。

<http://www.silk-teikei.jp>

シルクレポート 2019年1月号 NO.60 平成31年1月1日発行

編集 / 発行

一般財団法人大日本蚕糸会

〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-9-4 蚕糸会館6階

TEL : 03-3214-3500

FAX : 03-3214-3511

URL:<http://www.silk-teikei.jp>

製本 / 印刷

株式会社正大印刷社

無断転載禁ず